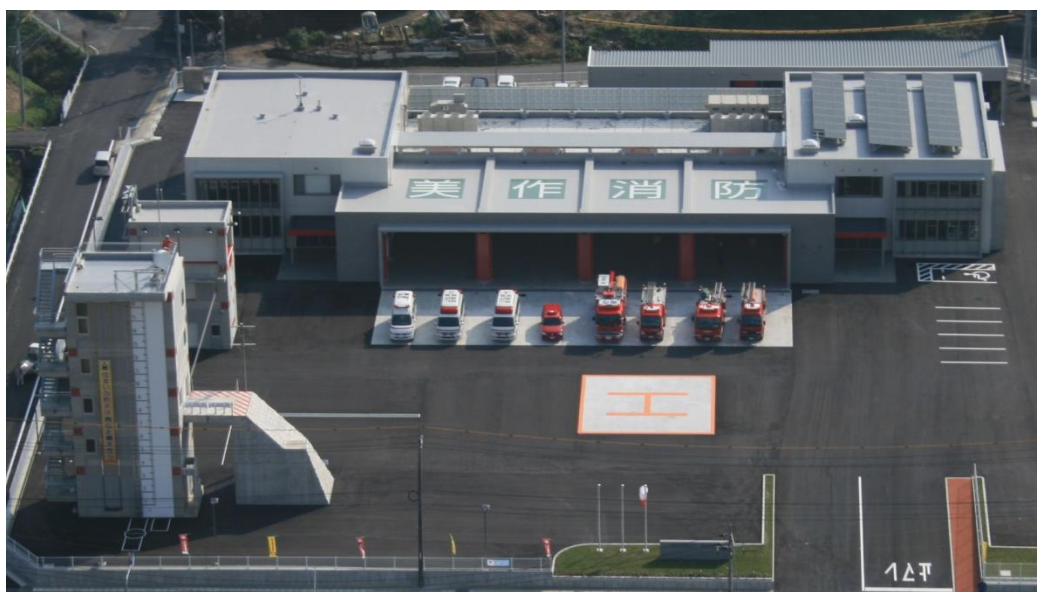


令和6年版年報



美作市消防本部

は し が き

この消防年報は、令和6年中の消防業務に関する諸般の事項を集録し、将来の

参考に資すると共に、消防事情を紹介するために編集したものです。

なお、この消防年報は、令和6年12月末日をもって集録し、一部これによらない

ものについては、当該表にそれぞれ記載する年月日現在によるものです。

美作市消防本部

目 次

美作市消防本部の沿革	1
消防庁舎の現況	12
美作市消防本部の案内図	13
美作市消防本部の組織と機構	14

総 務

1. 職員の定員、実員及び配置	15
2. 職員の階級別年齢状況	15
3. 職員の教養状況	16
4. 現有車両一覧表	17

予 防

1. 防火対象物の概況と査察	18
2. 法第 8 条該当防火対象物の状況	19
3. 消防用設備等の点検報告を要する防火対象物と受理件数	19
4. 消防用設備等の届出及び検査状況	19
5. 防火講習会、避難訓練等指導状況	19
6. 建築同意事務処理状況	20
7. 建築同意事務処理の推移	20
8. 月別各種届出件数	21
9. 市村別各種届出受理件数	22
10. 各種届出受理件数（過去 5 年間の比較）	23
11. 市村別危険物施設状況	24
12. 危険物数量別施設状況	25
13. 危険物関係事務処理状況	26
14. 危険物関係査察実施状況	27
15. 過去 5 年間の施設別設置許可件数	28

火 災

火災の概要	29
1. 火災発生状況及び前年との比較	31
2. 市村別・月別・種別別火災発生状況	32
3. 曜日・時間別火災発生状況	33

4. 市村別建物火災程度・損害状況	34
5. 原因別火災発生状況	35
6. 過去 5 年間の火災発生状況	36
7. 過去 5 年間の火災発生状況と主な出火原因	37

救 急

救急の概要	38
1. 月別救急出場件数	39
2. 月別救急搬送人員	40
3. 出場場所地区別救急出場件数	41
4. 署所別出場件数及び搬送人員	41
5. 年齢別搬送人員	42
6. 事故発生場所区分別搬送人員	43
7. 現場到着所要時間別出場件数	44
8. 医療機関等への収容時間別搬送人員	44
9. 現場到着所要時間・医療機関等収容時間の推移状況	45
10. 不搬送理由別不搬送件数	45
11. 時間帯別・事故種別別出場件数	46
12. 曜日別・事故種別別出場件数	47
13. 過去 10 年間の事故種別別出場件数	48
14. 過去 10 年間の年齢別搬送人員の状況	49
15. 過去 10 年間の傷病程度別搬送人員の状況	50
16. 過去 10 年間の心肺停止傷病者への 一般市民による応急手当実施状況	51

救 助

救助の概要	52
1. 事故種別別救助出場件数・活動件数	53
2. 事故発生地区別救助出場件数・活動件数	54
3. 救助人員における年齢区分別傷病程度	55
4. 救助人員における事故種別傷病程度	55
5. 過去 5 年間の事故種別救助出場件数	56

通 信

通信の概要	57
-------------	----

1. 美作地区消防指令センター管内	
区分別着信件数の内美作市消防本部管内着信件数の割合	58
2. 過去 3 年間の美作市消防本部管内種別別 119 番通報着信件数	59
3. 過去 3 年間の美作地区消防指令センター管内	
種別別 119 番通報着信件数	59
4. 過去 3 年間の美作市消防本部管内	
固定電話と携帯電話からの 119 番通報着信件数	60
5. 過去 3 年間の美作地区消防指令センター管内	
固定電話と携帯電話からの 119 番通報着信件数	60

美作市消防本部の沿革

昭和 47 年 3 月	英田広域市町村圏計画（広域常備消防整備計画）策定
昭和 48 年 1 月	英田圏域消防組合設立について申請
昭和 48 年 2 月	英田圏域消防組合設立許可（岡山県指令地 第 1657 号）
昭和 48 年 4 月	消防本部及び消防署設置についての政令指定を受ける。 消防職員 23 名を採用 英田圏域消防組合消防本部、署として発足。
昭和 48 年 6 月	消防本部、署業務開始。
昭和 48 年 8 月	消防ポンプ自動車（トヨタ FJ55V 改）3 台購入、内 1 台を大原分駐所に配備する。
昭和 48 年 9 月	小型動力ポンプ（シバウラ TF40）1 台購入、本署へ配備する。
昭和 48 年 10 月	指令車（トヨタ TT106V 改）1 台購入、本署へ配備する。
昭和 48 年 12 月	大原分駐所庁舎完成 小型動力ポンプ（シバウラ TF40）1 台購入、大原分駐所へ配備する。
昭和 49 年 1 月	救急車 3B 型（トヨタ H-RH19V）1 台購入、大原分駐所へ配備する。 救急業務開始
昭和 49 年 3 月	日本損害保険協会から救急車 3B 型（日産 GC240 改）1 台寄贈を受ける。 超短波消防無線機（基地局 3、移動局 6）を設置する。
昭和 49 年 4 月	消防職員 13 名採用、総員 36 名となる。
昭和 49 年 5 月	消防職員 1 名退職、新たに 3 名を採用、総員 38 名となる。
昭和 49 年 9 月	小型動力ポンプ（トーハツ V60A-S）1 台購入。
昭和 49 年 11 月	化学車（イスズ SBR380）1 台購入、本署へ配備する。
昭和 50 年 3 月	無線局開局。（移動局 1）超短波消防無線電話予備機を設置する。
昭和 50 年 6 月	日本消防協会から広報車（三菱 A112V）の寄贈を受ける。
昭和 50 年 12 月	消防職員 1 名退職、総員 37 名となる。
昭和 51 年 1 月	消防職員 1 名補充、総員 38 名となる。
昭和 51 年 3 月	無線局開局（移動局 1）
昭和 51 年 4 月	消防職員 1 名採用、総員 39 名となる。 日本損害保険協会から救急車 2B 型（トヨタ H-RH19V）1 台寄贈を受ける。
昭和 52 年 4 月	消防職員 2 名採用、総員 41 名となる。
昭和 52 年 9 月	消防職員 1 名採用、総員 42 名となる。

昭和 52 年 10 月	消防職員 1 名退職、総員 41 名となる。 岡山県へ消防職員 1 名を派遣し、岡山県から 1 名の派遣を受ける。
昭和 53 年 4 月	消防職員 3 名採用、総員 44 名となる。 大原分駐所を大原出張所に昇格させる。
昭和 53 年 6 月	指令車（トヨタ H-TA19V）1 台購入、本部に配備していた指令車を大原出張所に配置転換する。
昭和 53 年 7 月	消防庁舎建設に伴い施工業者指名入札会（岩谷工務店 落札）
昭和 53 年 8 月	仮庁舎へ移転 消防庁舎起工式執行、同じく着工する。
昭和 53 年 10 月	消防署員 1 名病死、総員 43 名となる。
昭和 53 年 12 月	新庁舎一部完成し、通信部門のみ移転する。
昭和 54 年 2 月	新庁舎落成、落成式執行。 新庁舎へ全面移転し、業務を始める。
昭和 54 年 4 月	消防職員 5 名採用、総員 48 名となる。
昭和 54 年 8 月	作東武蔵ライオンズクラブから救急車 2B 型（トヨタ H-RH42VB）1 台寄贈を受け、大原出張所へ配備する。
昭和 54 年 10 月	消防職員 1 名の岡山県派遣を解き、総員 49 名となる。 無線局開局（移動局 1） 大原出張所増改築に伴い施工業者指名入札会（寿建設 落札） 大原出張所増改築工事着工
昭和 54 年 12 月	大原出張所増改築工事完成
昭和 55 年 4 月	消防職員 1 名採用、総員 50 名となる。 原因調査車（ダットサン H-VJ810）1 台購入、本署に配備する。
昭和 55 年 7 月	国庫補助を受けて消防ポンプ自動車（トヨタ J-FJ56F）1 台購入、大原出張所に配備する。
昭和 55 年 8 月	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（トヨタ J-FJ56）1 台寄贈を受け本署に配備、予備車 1 台を設ける。
昭和 56 年 1 月	消防署員 1 名美作町から出向を受ける。 消防職員 1 名退職。
昭和 56 年 4 月	消防職員 1 名岡山県からの派遣を解く。総員 49 名となる。 大原出張所に配備していた指令車（昭和 49 年 10 月購入分）を廃車にする。
昭和 56 年 8 月	本署に配備していた救急車（昭和 49 年 3 月購入分）1 台を廃車にする。
昭和 56 年 9 月	大原出張所に配備していた消防車（昭和 48 年 8 月購入分）1 台を廃車にする。

昭和 56 年 10 月	日本消防協会から積載車（トヨタ J-RH24）1 台寄贈を受け、大原出張所へ配備する。
昭和 57 年 3 月	本署に配備していた救急車（昭和 49 年 1 月購入分）1 台を廃車にする。
昭和 57 年 11 月	作東武蔵ライオンズクラブから救急車（日産 L-FHGE23）1 台寄贈を受け、本署へ配備する。 訓練塔改修
昭和 58 年 1 月	岡山県共済農業協同組合連合会から救急車（日産 L-FHGE23）1 台寄贈を受け、本署へ配備する。
昭和 58 年 6 月	本署救急車（H-PH19V）を搬送車に改造し、本署に配備する。
昭和 58 年 11 月	消防職員 1 名美作町からの出向を解く。総員 48 名となる。
昭和 59 年 4 月	消防職員 2 名採用、総員 50 名となる。
昭和 59 年 8 月	日本消防協会から指令広報車（日産 L-VRU11 改）1 台寄贈を受け、本部に配備する。 日本消防協会から緊急給水用ろ水器 1 台寄贈を受け、本署へ配備する。
昭和 60 年 7 月	本署に配属していた広報車（昭和 50 年 7 月日本消防協会から寄贈分）1 台を廃車にする。
昭和 60 年 8 月	英田圏域危険物安全協会から広報車（スズキ M-CA71V）1 台寄贈を受け、本部に配備する。
昭和 60 年 11 月	中国自動車道における救急業務を受託する。 日本道路公団から救急車（日産 M-UW40 改）1 台寄贈を受け本署に配備する。
昭和 61 年 9 月	津山信用金庫から救急車（イスズ N-WFS53FVH）1 台寄贈を受け、本署へ配備する。 本署に配備していた救急車（日産 L-FHGE23）を大原出張所へ配備する。 出張所に配備していた救急車（トヨタ H-RH42VB）を本署へ指揮搬送車として配備する。 小型動力ポンプ（シバウラ TF-15SE）1 台購入、本署へ配備する。
昭和 61 年 9 月	本部庁舎の塔屋、階段室補修工事入札（須田工務店 落札） 本部庁舎の塔屋、階段室補修工事着工
昭和 61 年 10 月	本部庁舎の塔屋、階段室補修工事完成 本署に配備していた指揮搬送車（トヨタ H-RH19V）1 台を廃車にする。

昭和 61 年 12 月	日本防火協会から英田圏域婦人防火クラブ連絡協議会へ防火広報車（日産 VHGE23）1 台寄贈を受け、本部が管理することになり本署へ配備する。 本署に配備していた指揮搬送車（トヨタ HRH42VB）1 台を廃車にする。
昭和 62 年 1 月	国庫補助を受けて消防自動車（三菱 FE-335B）1 台購入、本署へ配備する。 本署に配備していた消防車（トヨタ FJ55V）1 台を廃車にする。
昭和 62 年 2 月	国庫補助を受けて救助工作車（日野 P-FD172BA）1 台購入、本署へ配備する。
昭和 63 年 3 月	訓練塔改修工事完成
昭和 63 年 11 月	組合発足 15 周年記念式典
平成 元年 2 月	本部通信指令室改修工事入札（須田工務店 落札）
平成 元年 3 月	本部通信指令室改修工事着工 本部通信指令室改修工事完成
平成 元年 4 月	本署に配備していた指揮車（日産 H-VJ810）1 台を廃車にする。
平成 2 年 1 月	本部、署の機構改革。 消防職員 1 名退職、総員 49 名となる。
平成 2 年 3 月	通信指令台（I 型）設置工事完成
平成 2 年 8 月	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（日産 T-FGY60 改）1 台寄贈を受け、大原出張所に配備する。 大原出張所に配備していた消防車（トヨタ-FJ56F・昭和 55 年 7 月購入分）1 台を廃車にする。
平成 2 年 12 月	岡山県共済農業協同組合連合会から救急車（日産 T-FTGE24）1 台寄贈を受け、大原出張所に配備する。 大原出張所に配備していた救急車（日産 L-FHGE2）を本署に配備する。
平成 3 年 4 月	消防職員 2 名採用、総員 51 名となる。
平成 3 年 12 月	岡山県共済農業協同組合連合会から救急車（日産 E-AEGE24 改）1 台寄贈を受け、本署に配備する。
平成 3 年 12 月	本署に配備していた救急車（日産 M-UW40 改・日本道路公団から寄贈分）1 台を廃車にする。 本署に配備していた救急車（日産 L-FHGE23・昭和 57 年 11 月作東武蔵ライオンズ寄贈分）1 台を廃車にする。
平成 4 年 3 月	大山中継局、本署、大原出張所の無線関係を更新する。
平成 4 年 4 月	消防職員 2 名採用、総員 53 名となる。

平成 4 年 6 月	指令車（トヨタ E-ST170G 改）1 台購入、本部へ配備する。 本部に配備していた指令車（トヨタ H-TA19V・昭和 53 年購入分）1 台を廃車にする。
平成 4 年 9 月	日本消防協会から救急車（トヨタ T-RZHI32S）1 台寄贈を受け本署に配備する。 本署に配備していた救急車（日産 L-FHGE23・昭和 58 年 1 月岡山県共済農業協同組合連合会寄贈分）1 台を廃車にする。
平成 5 年 2 月	本部消防長室・署事務所等補修工事着工
平成 5 年 3 月	消防職員 3 名退職。 本部消防長室・署事務所等補修工事完成
平成 5 年 4 月	消防職員 5 名採用、総員 55 名となる。
平成 5 年 11 月	防災行政通信ネットワーク整備事業着工
平成 6 年 2 月	大原出張所屋根改修工事入札（森岩木材 落札） 大原出張所屋根改修工事着工 本部事務所補修工事着工 本部事務所補修工事完成
平成 6 年 3 月	防災行政通信ネットワーク整備事業完成 大原出張所屋根改修工事完成 消防職員 1 名退職。
平成 6 年 4 月	消防職員 3 名採用、総員 57 名となる。
平成 6 年 12 月	化学車（日野 U-FD3HEAA 改）1 台購入、本部へ配置する。 本部に配備していた化学車（イスズ SER380・昭和 49 年購入分）1 台を廃車にする。 岡山県共済農業協同組合連合会から救急車（日産 E-FEGE24）1 台寄贈を受け、大原出張所へ配備する。 大原出張所へ配備していた救急車（日産 T-FTGE24）を本署に配備する。
平成 6 年 12 月	本署に配備していた救急車（イスズ N-WFS53FVH・昭和 61 年 9 月津山信用金庫寄贈分）1 台を廃車にする。
平成 7 年 1 月	阪神大震災に伴う応援派遣（1 月 17 日～3 月 29 日延べ 147 名）
平成 7 年 2 月	本署事務所改修工事着工 大原出張所事務所改修工事着工 本署事務所改修工事完成 大原出張所事務所改修工事完成
平成 7 年 3 月	本部講堂補修工事着工 本部講堂補修工事完成
平成 7 年 4 月	消防職員 2 名採用、総員 59 名となる。

平成 7 年 10 月	本署下水道接続工事着工 本署下水道接続工事完成
平成 7 年 11 月	本署車庫兼倉庫棟新築工事入札（須田住建 落札）
平成 7 年 12 月	本署車庫兼倉庫棟新築工事着工
平成 8 年 3 月	本署車庫兼倉庫棟新築工事完成 本署浴槽等の改修工事着工 本署浴槽等の改修工事完成 本署前庭の排水路の溝蓋改修 本署屋外階段塗装 大原出張所の望楼塗装
平成 8 年 5 月	指令広報車（トヨタ E-ST191G）1 台購入、本署へ配備する。 本署に配備していた指令広報車（日産 L-VRU11 改・昭和 59 年 8 月日本消防協会寄贈分）1 台を廃車にする。
平成 8 年 9 月	津山信用金庫から救急車（日産 E-FEGE24）1 台寄贈を受け 本署に配備する。
平成 8 年 10 月	本署救急車（トヨタ T-RZHI32S）を広報車に改造し、本署に配備する。 本署に配備していた防火広報車（日産 VHGE23・昭和 61 年 12 月日本防火協会から英田圏域婦人防火クラブ連絡協議会寄贈分）1 台を廃車にする。
平成 8 年 12 月	国庫補助を受けて消防自動車（三菱 KC-FG538D）1 台購入、大原出張所へ配備する。
平成 9 年 3 月	本署車庫兼倉庫棟 2 階の一部に消毒室を設ける。 消防職員 1 名退職。
平成 9 年 6 月	事務連絡車（ホンダ V-HH4）1 台購入、本部へ配備する。
平成 9 年 9 月	指揮車（三菱 R-CD2V）1 台購入、大原出張所へ配備する。
平成 9 年 10 月	本部旗製作
平成 9 年 12 月	緊急援助隊資機材一式購入
平成 10 年 3 月	本部講堂床貼替及び暗幕交換
平成 10 年 4 月	消防職員 1 名採用、総員 59 名となる。
平成 10 年 11 月	大原出張所事務所及び食堂の床改修工事入札（モリモト工業 落札） 大原出張所事務所及び食堂の床改修工事着工 大原出張所事務所及び食堂の床改修工事完成
平成 11 年 2 月	本署 2 階便所改修工事（1 基洋式に改装）入札（イマダ 落札）

平成 11 年 3 月	日本損害保険協会から高規格救急車（トヨタ GB-VCH38S）1 台の寄贈を受け本署に配備する。 本署に配備していた救急車（日産 T-FTGE24・岡山県共済農業協同組合連合会から寄贈分）1 台を廃車にする。 本署 2 階便所改装工事（1 基洋式に改装）着工 本署 2 階便所改修工事（1 基洋式に改装）完成
平成 12 年 3 月	消防職員 2 名退職。
平成 12 年 4 月	消防職員 2 名採用、総員 59 名となる。
平成 12 年 12 月	本署 2 階調理室改修工事入札（(有)丸大製材所 落札） 本署 2 階調理室改修工事着工
平成 13 年 2 月	本署 2 階調理室改修工事完成
平成 13 年 3 月	高規格救急車（トヨタ GE-VCH38S）1 台購入、大原出張所へ配備する。 大原出張所に配備していた救急車（日産 E-FEGE24・岡山県共済農業協同組合連合会寄贈分）1 台を廃車にする。
平成 13 年 11 月	連絡車（ホンダ F-CF4）1 台購入、本部に配備する。
平成 13 年 12 月	消防職員 1 名退職。総員 58 名となる。 津山信用金庫から救急車（トヨタ GE-VCH28S-QRSRK4WD2B 型）1 台寄贈を受け、本署に配備する。 本署に配備していた救急車（日産 E-FEGE24 津山信用金庫寄贈分）1 台を廃車にする。
平成 14 年 2 月	通信指令室増改築工事入札（広瀬住建 落札）
平成 14 年 3 月	通信指令室増改築工事着工 通信指令室増改築工事完成 事務職員 1 名退職。総員 57 名となる。
平成 14 年 4 月	消防職員 2 名採用。総員 59 名となる。
平成 14 年 6 月	消防職員 1 名退職。総員 58 名となる。
平成 14 年 7 月	本部に配備していた広報車（トヨタ T-RZHI32S）1 台を廃車にする。 広報車（トヨタハイエース GE-RZHI83K）を本部に配備する。 消防緊急通信指令システム（1 型）工事入札 （沖電気工業株式会社 落札） 発信地表示システム工事入札（沖電気工業株式会社 落札）
平成 14 年 11 月	消防緊急通信指令システム（1 型）工事着工 発信地表示システム工事入札着工
平成 15 年 3 月	消防緊急通信指令システム（1 型）完成 発信地表示システム工事入札完成

	消防職員 1 名退職。総員 57 名となる。
平成 15 年 4 月	消防職員 2 名採用、総員 59 名となる。
平成 16 年 2 月	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（三菱 KK-FG73ED） 1 台寄贈を受け、本署に配備する。
平成 16 年 3 月	消防職員 2 名退職、総員 57 名となる。
平成 16 年 4 月	消防職員 2 名採用、総員 59 名となる。
平成 16 年 7 月	消防職員 1 名退職、総員 58 名となる。
平成 17 年 3 月	3 月 30 日をもって英田圏域消防組合を閉庁 3 月 31 日から美作市消防本部、署として発足 3 月 31 日から西粟倉村消防事務の事務委託に関する規約締結
平成 18 年 3 月	消防職員 1 名退職、総員 57 名となる。
平成 18 年 4 月	消防職員 5 名採用、総員 62 名となる。 市職員の 1 名異動により、総員 63 名となる。 勝田・英田駐在所運用開始
平成 18 年 9 月	津山信用金庫から救急車（トヨタ CBF-TRH226S）1 台寄贈を受け、本署に配備する。 消防職員 1 名退職、総員 62 名となる。
平成 18 年 10 月	市職員の 1 名異動により、総員 63 名となる。
平成 19 年 3 月	消防職員 3 名退職。総員 60 名となる。
平成 19 年 4 月	消防職員 5 名採用、総員 65 名となる。
平成 20 年 1 月	国庫補助（緊急消防援助隊設備整備費補助）を受けて災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型・日野 BDG-GX7JGWA 改） 1 台購入、大原出張所に配備する。 大原出張所に配備していた消防車（三菱 KC-FG538D）を本署に配備する。 本署に配備していた消防車（三菱 FE-335B）1 台を廃車にする。
平成 20 年 2 月	指令車（トヨタ CBA-NCP59G）及びボートトレーラを購入、本署に配備する。
平成 20 年 3 月	本署に配備していた指令車（トヨタ ST170G 改）1 台を廃車にする。 消防職員 1 名退職、1 名異動により、総員 63 名となる。
平成 20 年 4 月	消防職員 2 名採用、総員 65 名となる。
平成 20 年 7 月	本署庁舎空調改修工事入札（㈱中電工美作営業所 落札） 本署庁舎空調改修工事着工
平成 20 年 10 月	本署庁舎空調改修工事完成
平成 20 年 11 月	岡山県防災情報ネットワーク高度化事業着工 救急車（トヨタ CBF-TRH226S）1 台更新、本署に配備する。

平成 20 年 12 月	岡山県防災情報ネットワーク高度化事業完成。 消防職員 1 名退職、総員 64 名となる。
平成 21 年 3 月	消防職員 3 名退職、総員 61 名となる。
平成 21 年 4 月	消防職員 2 名採用、総員 63 名となる。 岡山県（消防防災航空センター）に消防職員 1 名を派遣する。
平成 21 年 12 月	国庫補助（緊急消防援助隊設備整備費補助）を受けて救助工作車 II 型（日野 BDG-GX7JGWA 改）1 台購入、本署に配備する。 本署に配備していた救助工作車（日野 P-FD172BA）1 台を廃車する。
平成 22 年 3 月	消防職員 2 名退職、1 名異動により、総員 60 名となる。
平成 22 年 4 月	消防職員 3 名を採用し、総員 63 名となる。
平成 22 年 5 月	国庫補助（緊急消防援助隊設備整備費補助）を受けて救急車（トヨタ CBF-TRH226S）1 台を購入、本署に配備する。 本署に配備していた救急車（GB-VCH38S）1 台を廃車にする。
平成 22 年 6 月	本署に配備していた事務連絡車（E-CE4）1 台を廃車にする。
平成 22 年 9 月	美作市危険物安全協会から指導車（トヨタ DBA-SCP90）1 台寄贈を受け、本署に配備する。
平成 22 年 10 月	美作地区 3 消防本部消防通信指令事務協議会が設置される。 平成 14 年度に構築した消防情報支援システム機器を更新する。
平成 23 年 3 月	東日本大震災発生により、緊急消防援助隊として宮城県へ救急隊 1 隊、隊員を延べ 8 名派遣。
平成 23 年 3 月	消防職員 1 名退職、総員 62 名となる。
平成 23 年 4 月	消防職員 3 名採用、総員 65 名となる。
平成 24 年 3 月	消防職員 5 名退職、総員 60 名となる。
平成 24 年 4 月	消防職員 3 名採用、総員 63 名となる。 津山圏域消防組合、真庭市消防本部、美作市消防本部による消防指令業務の共同運用（美作地区消防指令センター）開始。
平成 24 年 6 月	消防職員 1 名退職、総員 62 名となる。
平成 24 年 10 月	資器材搬送車（トヨタ TKG-XZU695）1 台購入、本署に配備する。 本署に配備していた指令広報車（トヨタ E-ST191G）1 台を廃車にする。 全国共済農業組合連合会岡山県本部より救急車（日産 CBF-FPWGE50 改）1 台寄贈を受け、大原出張所に配備する。 大原出張所に配備していた救急車（トヨタ GE-VCH38S）1 台を廃車にする。 新消防庁舎建設工事入札（株式会社 小倉組 落札） 新消防庁舎建設工事着工

平成 25 年 3 月	消防職員 2 名退職、総員 60 名となる。
平成 25 年 4 月	消防職員 3 名採用、総員 63 名となる。
平成 25 年 7 月	消防救急デジタル無線設備設置工事入札。 (株式会社 日立製作所 中国支社 落札) 【津山圏域消防本部・真庭市消防本部・美作市消防本部 3 消防本部による共同整備】
平成 25 年 10 月	消防救急デジタル無線設備設置工事着工（美作市消防本部分） 新消防庁舎建設工事竣工
平成 25 年 11 月	新消防庁舎運用開始
平成 26 年 3 月	消防職員 3 名退職、総員 60 名となる。
平成 26 年 4 月	消防職員 3 名採用、総員 63 名となる。
平成 26 年 6 月	任期付消防職員 1 名採用、総員 64 名となる。
平成 26 年 8 月	広島市土砂災害発生により、緊急消防援助隊として隊員を延べ 9 名派遣する。
平成 27 年 3 月	消防救急デジタル無線設備工事に伴い、大山中継所を撤去する。 消防救急デジタル無線設備設置工事完成、運用開始する。
平成 28 年 3 月	本署に配備していた化学消防車（日野 U-FD3HEAA 改）1 台と救急車（トヨタ CE-VCH28S）1 台を、（一社）日本外交協会を通じ海外に寄贈する。 救急車（トヨタ CBF-TRH226S）1 台を更新、本署に配備する。 化学車（日野 SDG-GX7JGAA 改）1 台を更新、本署に配備する。 消防職員 2 名退職、総員 62 名となる。
平成 28 年 4 月	消防職員 3 名採用、うち美作市初の女性消防職員 1 名採用、総員 65 名となる。
平成 28 年 4 月	熊本地震発生により、緊急消防援助隊として救急隊 1 隊、隊員を延べ 10 名派遣する。
平成 28 年 9 月	女性職員仮眠室建設工事入札（株式会社 佐藤建設 落札）
平成 28 年 10 月	女性職員仮眠室建設工事着工
平成 28 年 12 月	女性職員仮眠室建設工事完成
平成 28 年 3 月	本署に配備していた消防車（三菱 KC-FG538D）1 台を公売する。
平成 28 年 3 月	消防車（日野 TKG-XZU685M）1 台を更新、本署に配備する。
平成 29 年 7 月	事務連絡車（スズキ HBD-DA17V）を更新、本署に配備する。
平成 29 年 4 月	岡山県（消防防災航空センター）に消防職員 1 名を派遣、総員 64 名となる。 大原出張所耐震改修工事入札（株式会社 高元組 落札）
平成 29 年 5 月	大原出張所耐震改修工事着工
平成 29 年 7 月	大原出張所耐震改修工事完成

平成 30 年 2 月	大原出張所警鐘台塗裝修繕工事着工（株式会社 エイワン）
平成 30 年 3 月	大原出張所警鐘台塗裝修繕工事完成 消防職員 2 名退職、総員 62 名となる。
平成 30 年 4 月	消防職員 3 名採用、総員 65 名となる。 美作市の機構改革により、消防団関係事務が危機管理室から消防総務課へ移管となる。
平成 30 年 7 月	平成 30 年 7 月豪雨発生により、岡山県下消防相互応援協定に基づき、倉敷市真備町及び総社市に 5 隊 17 名派遣する。
平成 31 年 3 月	美作市消防団が、日本消防協会特別表彰「まとい」を受章する。 指揮車（トヨタ CBF-TRH226S）1 台を更新、本署に配備する。 本署に配備していた指揮車（トヨタ CBA-NCP59G）を大原出張所に配備する。 大原出張所に配備していた指揮車（三菱 R-CD2V）を廃車にする。
令和元年 9 月	美作市消防団が防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞する。
令和元年 10 月	救急車（トヨタ CBF-TRH226S）1 台を更新、本署に配備する。
令和 2 年 3 月	消防職員 1 名退職、総員 64 名となる。
令和 2 年 6 月	連絡車（ダイハツ EBD-S331V）1 台を更新、本署に配備する。
令和 3 年 1 月	救急車（トヨタ 3BF-TRH226S）1 台を更新、本署に配備する。
令和 3 年 3 月	消防職員 5 名退職、消防職員 1 名美作市役所からの出向を解く。 総員 60 名となる。
令和 3 年 4 月	消防職員 3 名採用、総員 63 名となる。
令和 4 年 3 月	消防職員 1 名退職、総員 62 名となる。
令和 4 年 4 月	消防職員 4 名採用、消防職員 1 名出向（美作市消防団事務）。 総員 65 名となる。
令和 5 年 3 月	消防職員 1 名退職、総員 64 名となる。
令和 5 年 3 月	救急車（日産 3BF-CS8E26 改）1 台を更新、本署に配備する。 本署に配備していた救急車（トヨタ CBF-TRH226S）1 台を廃車にする。
令和 5 年 4 月	岡山県（消防防災航空センター）に消防職員 1 名を派遣、総員 63 名となる。
令和 5 年 11 月	通学・実習車（トヨタ 5BA-NRE161G）を 1 台購入、本署に配備する。
令和 6 年 3 月	消防職員 1 名退職、総員 63 名となる。
令和 6 年 4 月	消防職員 2 名採用、総員 65 名となる。
令和 6 年 3 月	岡山市南区飽浦地域における山林火災発生により、岡山県下消防相互応援協定に基づき、岡山市南区に 6 隊 24 名派遣する。
令和 7 年 3 月	消防職員 2 名退職、総員 63 名となる。

消防庁舎の現況

区 分	所 在 地	建築年月日	構 造	敷地面積	建築面積	延面積	電話番号
本部・署 庁舎棟	美作市櫛原下1100番地	H 25. 11. 1	鉄筋コンクリート造 2階建	8,611.40㎡	1,601.74㎡	2,078.63㎡	0868-72-0119(代)
主訓練塔			鉄筋コンクリート造 5階建		98.92㎡	254.70㎡	
副訓練塔			鉄筋コンクリート造 3階建		31.27㎡	93.81㎡	
車庫・倉庫棟			鉄骨造平屋建		256.50㎡	256.50㎡	
大原出張所	美作市古町1766-2	S 48. 11. 28	鉄筋コンクリート平屋建	756.5㎡	267.42㎡	247.54㎡	0868-78-0119

消防本部・署



大原出張所

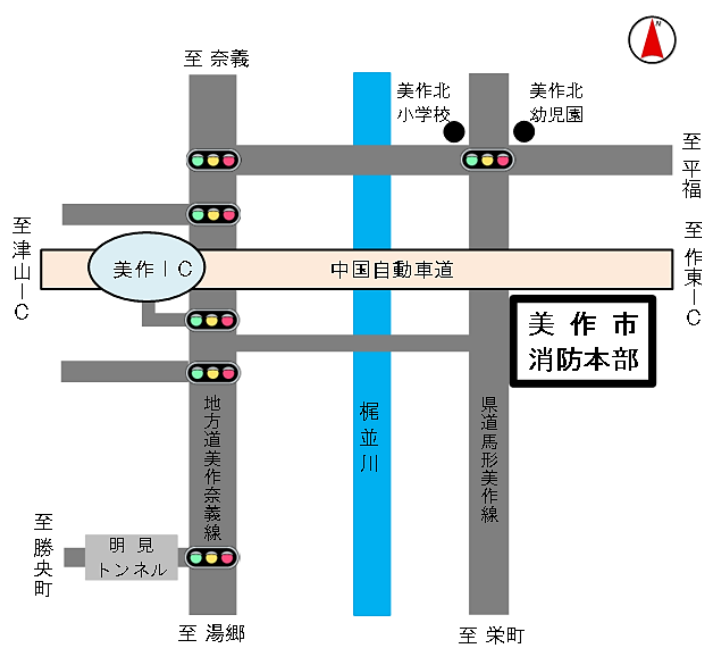


美作市消防本部の案内図

美作市消防本部位置図

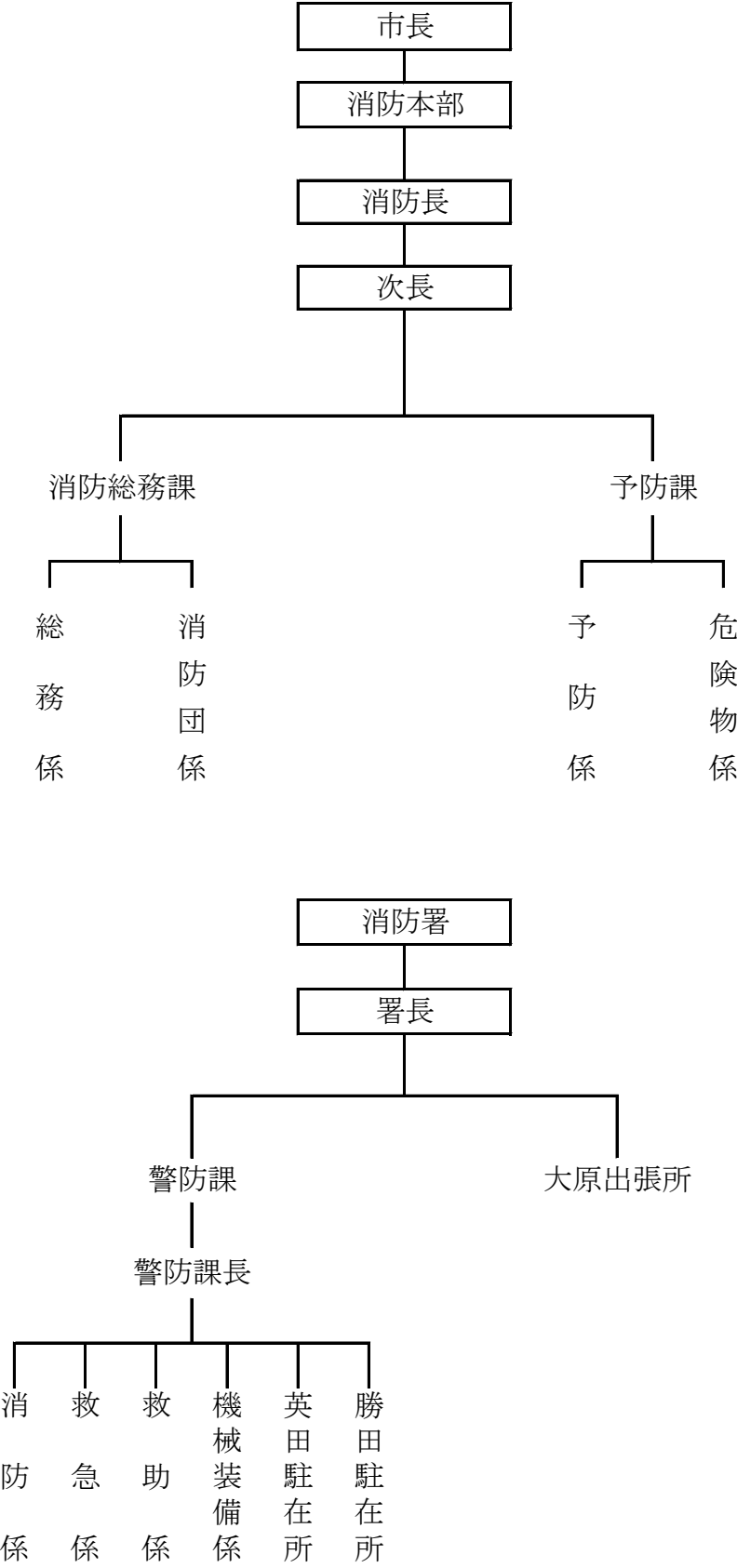


庁舎付近案内図



美作市消防本部の組織と機構

令和7年4月1日現在



総務

消防吏員・・・・・・・・・・定員 65 名

// ・・・・・・・・・・実員 64 名

// ・・・・・・・・平均年齢 38.2 歳

(令和 7 年 4 月 1 日現在)



1. 消防吏員の定員、実員及び配置

(令和7年4月1日現在)

階級別 区 分		消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消 防 士	見 習 消防士	合 計
定 員		65							
実 員		1	16	16	19	0	11	1	64
消 防 本 部	消防 総務課	消 防 長	1						1
		課 長		1					1
		参 事		1					1
		課 長 補 佐							0
		総 務 主 幹							0
		総 務 係				2			2
		消 防 団 係							0
		総 務 課 付			1			1	2
	予防課	課 長		1					1
		参 事		1					1
		課 長 補 佐							0
		予 防 主 幹		1					1
		予 防 係				2			2
		危 険 物 係			1				1
消 防 署	警防課	署 長		1					1
		課 長		1					1
		課 長 補 佐		2					2
		主 幹		4					4
		救 急 係			2	3	2		7
		救 助 係			1	2	2		5
		消 防 係			3	2	1		6
		機 械 装 備 係			3		2		5
		救 急 駐 在			1	2			3
	出張所	大原出張所		1	4	4	4		13
美作地区消防指令センター			2		2				4

2. 消防吏員の階級別年齢状況

(令和7年4月1日現在)

階級別 年 齢 別	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消 防 士	見 習 消防士	合 計
18 ～ 20						1	1	2
21 ～ 25						7		7
26 ～ 30				4		3		7
31 ～ 35				10				10
36 ～ 40			5	4				9
41 ～ 45		2	9	1				12
46 ～ 50		6	2					8
51 ～ 55		5						5
56 ～ 60	1	3						4
61 ～								0
合 計	1	16	16	19	0	11	1	64
平 均 年 齢	59	51.3	42.3	33.7	0	22.9	18	38.2

3. 職員の教養状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

学校教育

教 育 名	実 施 期 間	派遣人員
消防大学校 第80期 幹部科	令和7年1月20日 ～ 令和7年3月7日	1
九州研修所 感染防止対策強化研修	令和6年4月17日 ～ 令和6年4月23日	1
第59期 初級 幹部科	令和7年1月22日 ～ 令和7年2月4日	2
第10期 中級 幹部科	令和7年1月8日 ～ 令和7年1月17日	2
第28期 警 防 科	令和7年3月3日 ～ 令和7年3月14日	2
第32期 火災調査科	令和7年2月12日 ～ 令和7年2月26日	2
第55期 予 防 科	令和6年9月30日 ～ 令和6年10月16日	1
通 信 指 令 研 修	令和6年11月27日 ～ 令和6年11月29日	1
実火災体験型訓練研修	令和6年10月30日 令和6年11月20日	各日2名 計4名

委託教育(資格取得)

教 育 名	派遣人員	教 育 名	派遣人員
玉掛け技能講習	2	小型移動式クレーン運転技能講習	2
二級小型船舶操縦士	1		

委託教育(教育・研修)

教 育 名	派遣人員	教 育 名	派遣人員
緊急車両運転者特別研修	1	予防技術検定	2
ドローン操縦技能講習	2	消防法令違反是正事例発表会	1
建物火災における屋内活動講習	1	消防実務講習会(予防)	1
ラダーレスキュー講習	2	予防技術講習会	1
高所作業特別教育	1	酸素欠乏・硫化水素危険作業 主任者技能講習	2

4. 現有車両一覧表

所属	車両名	年式	メーカー	登録番号	無線		原動機性能		性能	
					出力	呼出名称	気筒	排気量(cc)	放水量	級別
本部	指導車	平成22	トヨタ	岡山501め459			4	1,290		
	事務連絡車	平成29	スズキ	岡山480ち69-70			3	650		
	広報車	平成14	トヨタ	岡山100さ72-77	5W	みまさか 9	4	2,430		
	通学実習車	令和5	トヨタ	岡山502は78-65			4	1,490		
	連絡車	令和2	ダイハツ	岡山480と38-60			3	650		
消防署	消防1号車	平成20	日野	岡山830さ634	5W	おおはら 1	5	6,400	2.460m ³ /分	A-2
	消防2号車	平成29	日野	岡山800せ59	5W	みまさか2	4	4,009	2.00m ³ /分	A-2
	化学車	平成28	日野	岡山800は15-46	5W	みまさか 4	6	6,400	2.40m ³ /分	A-2
	救助工作車	平成21	日野	岡山830る119	5W	みまさか 12	6	6,400		
	救急1号車	令和5	日産	岡山800せ36-94	5W	みまさか 8	4	2,480		
	救急2号車	令和元	トヨタ	岡山800せ17-43	5W	みまさか 7	4	2,690		
	救急3号車	平成28	トヨタ	岡山800す94-81	5W	みまさか 6	4	2,690		
	救急4号車	令和2	トヨタ	岡山800せ24-48	5W	みまさか 10	4	2,690		
	指揮車	平成31	トヨタ	岡山800せ14-01	5W	みまさか5	4	2,690		
	資器材搬送車	平成24	トヨタ	岡山800す73-74	5W	みまさか 11	4	4,000		
	ボートトレーラー	平成20	ソレックス	岡山800る594						
大原出張所	大原消防車	令和7	日野	岡山830せ4938	5W	おおはら 1	4	4,009	2.000m ³ /分	A-2
	大原救急車	平成24	日産	岡山800す74-10	5W	おおはら 2	6	3,490		
	指揮車	平成20	トヨタ	岡山800す43-78	5W	おおはら 3	4	1,490		

予 防

令和6年4月1日～令和7年3月31日の計数

防火対象物・・・・・・・・・・1, 217対象物

危険物施設・・・・・・・・・・148施設

(令和7年3月31日現在)



1. 防火対象物の概況と査察

項			美 作	西栗倉	合 計	査 察
1	イ	映 画 館 ・ 劇 場	3		3	
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場	70		70	
2	イ	キャバレー、ナイトクラブ等				
	ロ	遊 技 場 、 ダ ン ス ホ ー ル	1		1	1
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等				
	ニ	カラオケボックス・遊興個室店等				
3	イ	待 合 料 理 店 の 類				
	ロ	飲 食 店	34	4	38	3
4		百 貨 店 、 マ ー ケ ッ ト 等	45	1	46	5
5	イ	旅 館 、 ホ テ ル 、 宿 泊 所	126	13	139	50
	ロ	共 同 住 宅	93	3	96	3
6	イ	病 院 、 診 療 所	16		16	2
	ロ	養護老人ホーム等(通所施設を除く)	19		19	6
	ハ	老人福祉センター・保育所等 (通所施設に限る)	33	5	38	10
	ニ	幼 稚 園 ・ 特 別 支 援 学 校	1	1	2	1
7		学 校	58	4	62	7
8		図 書 館 、 博 物 館	4		4	
9	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場				
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場	2	1	3	2
10		停 車 場				
11		神 社	9	3	12	1
12	イ	工 場 、 作 業 場	197	5	202	16
	ロ	ス タ ジ オ				
13	イ	車 庫 、 駐 車 場	24		24	4
	ロ	航 空 機 の 格 納 庫				
14		倉 庫	119	6	125	11
15		前各号に該当しない事業場	163	4	167	19
16	イ	特 定 を 含 む 複 合 用 途	85	13	98	6
	ロ	上 記 以 外 の 複 合 用 途	45		45	1
16の2		地 下 街				
16の3		準 地 下 街				
17		文 化 財	6	1	7	1
18		ア ー ケ ー ド				
19		市町村の指定する山林				
20		総務省令で定める舟車				
合 計			1153	64	1217	149

2. 法第8条該当防火対象物の状況

防火対象物の区分 (項) 事 項	1		2				3		4	5		6				7	8	9		10	11	12		13		14	15	16		16 の 2	16 の 3	17	合計
	イ	ロ	イ	ロ	ハ	ニ	イ	ロ		イ	ロ	イ	ロ	ハ	ニ			イ	ロ					イ	ロ								
対 象 物 数	3	60		1				19	26	27	12	6	14	13	1	18	2		1		3	15				1	25	47	3			1	298
防 火 管 理 者 届 出 数	3	21		1				11	25	26	8	5	13	11	1	18	1		1		1	14				1	22	36	1			1	221
消 防 計 画 届 出 数	3	21		1				9	23	25	7	5	13	11	1	18	1		1		1	14				1	20	33	1			1	210

3. 消防用設備等の点検報告を要する防火対象物と受理件数

防火対象物の区分 (項) 延面積報告件数		1		2				3		4	5		6				7	8	9		10	11	12		13		14	15	16		16 の 2	16 の 3	17	18	合計
		イ	ロ	イ	ロ	ハ	ニ	イ	ロ		イ	ロ	イ	ロ	ハ	ニ			イ	ロ					イ	ロ									
1,000㎡ 以 上	対象物数	2	2		1				3	16	15	20	4	7	5		31	1		1			64		1		23	42	24	8					270
	報告件数	2	2		1				2	15	8	16	4	7	4		31	1		1			54		1		19	32	19	7					226
1,000㎡ 未 満	対象物数	1	51						22	27	85	62	11	12	28	2	24	3		2		8	107		22		82	98	63	29			6		745
	報告件数	1	23						6	15	62	20	6	12	19	2	22	1		2		1	59		15		41	68	26	11			6		418
合 計	対象物数	3	53	0	1	0	0	0	25	43	100	82	15	19	33	2	55	4	0	3	0	8	171	0	23	0	105	140	87	37	0	0	6	0	1015
	報告件数	3	25	0	1	0	0	0	8	30	70	36	10	19	23	2	53	2	0	3	0	1	113	0	16	0	60	100	45	18	0	0	6	0	644

4. 消防用設備等の届出及び検査状況

防火対象物の区分 (項) 届出種別		1		2				3		4	5		6				7	8	9		10	11	12		13		14	15	16		16 の 2	16 の 3	17	18	合計
		イ	ロ	イ	ロ	ハ	ニ	イ	ロ		イ	ロ	イ	ロ	ハ	ニ			イ	ロ					イ	ロ									
消 防 用 設 備 等 着 工 届			3								8				1		1						4				1	3							21
消 防 用 設 備 等 設 置 届			3						1	1	17				3		1						8				2	6	5						47
消 防 用 設 備 等 完 成 検 査			3						1	1	17				3		1						8				2	6	5						47

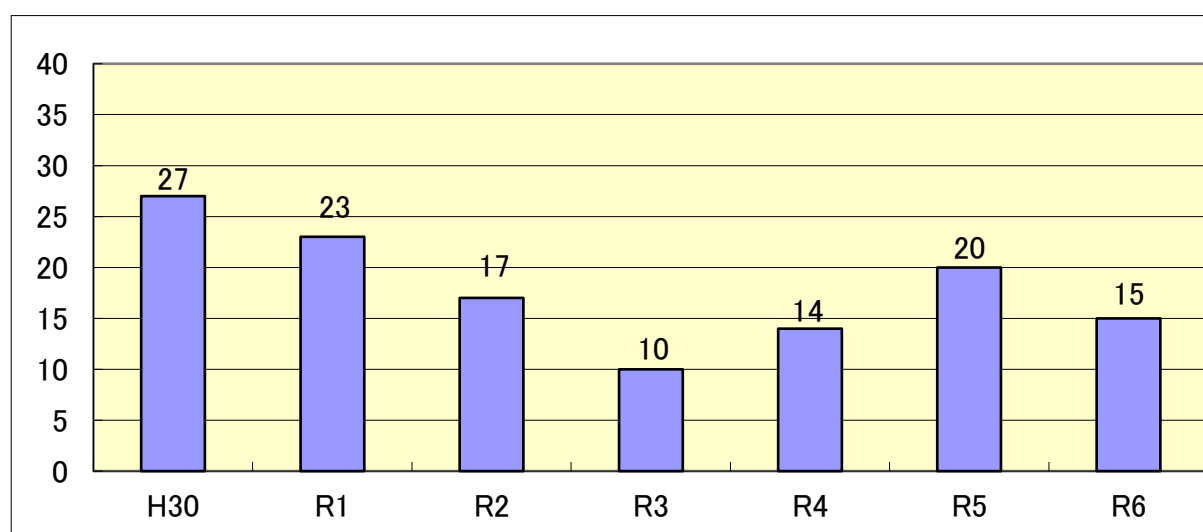
5. 防火講習会、避難訓練等指導状況

防 火 対 象 物 の 区 分	1		2				3		4	5		6				7	8	9		10	11	12		13		14	15	16		16 の 2	17	合 計
	イ	ロ	イ	ロ	ハ	ニ	イ	ロ		イ	ロ	イ	ロ	ハ	ニ			イ	ロ			イ	ロ	イ	ロ			イ	ロ			
件 数		2								5	1	2	3	9	1	12			1			5					11	10				62

6. 建築同意事務処理状況

申請区分	同意 件数 A			不同意 件数 B	不同意の理由				総計 A+B
		指導無	指導有		構造	設備	避難	その他	
新築	10	10							10
増築	4	4							4
改築									0
移転									0
修繕									0
模様替									0
用途変更	1	1							1
その他									0
合計	15	15	0	0	0	0	0	0	15

7. 建築同意事務処理の推移



8.月別各種届出件数

月 別 届 出 種 別	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	一 月	二 月	三 月	合 計
炉・かまど設置届				2				1					3
ボイラー設置届				1				1	2		2		6
サウナ設備			1										1
変電設備設置届			1	3	2		2		2	2			12
発電設備設置届				3	1				1				5
蓄電池設備設置届		1				1	2	1			1		6
乾燥設備設置届													0
水素ガス気球設置届													0
少量危険物貯蔵取扱届					1	1		2	2		1	3	10
火災とまぎらわしい行為の届	12	11	3	6	16	12	16	18	16	43	8	8	169
煙火打上届			1	2									3
催物開催届													0
道路工事占用届	8	4	4	6	16	12	49	14	16	13	12	8	162
水道断水減水届													0
防火対象物使用開始届	5		3	1		3	6	3	6	4			31
防火管理者選任解任届	2	6	4	6	2	7	4	3	4	1	1	1	41
消 防 計 画 届	6	8	5	6	2	5	4	3	4	1	1	1	46
圧縮アセチレンガス等の 貯蔵・取扱いの届	1	1	1	1		2	1	2		1	1		11
ネオン管灯設置届													0
指 定 可 燃 物							1		1				2
合 計	34	31	23	37	40	43	85	48	54	65	27	21	508

9.市村別各種届出受理件数

市 村 別 届 出 種 別	美作市	西栗倉村	合 計
炉 ・ か ま ど 設 置 届	3		3
ボ イ ラ ー 設 置 届	6		6
サ ウ ナ 設 備	1		1
変 電 設 備 設 置 届	12		12
発 電 設 備 設 置 届	4	1	5
蓄 電 池 設 備 設 置 届	5	1	6
乾 燥 設 備 設 置 届			0
水 素 ガ ス 気 球 設 置 届			0
少 量 危 険 物 貯 蔵 取 扱 届	10		10
火 災 と ま ぎ ら わ し い 行 為 の 届	166	3	169
煙 火 打 上 届	3		3
催 物 開 催 届			0
道 路 工 事 占 用 届	157	5	162
水 道 断 水 減 水 届			0
防 火 対 象 物 使 用 開 始 届	29	2	31
防 火 管 理 者 選 任 解 任 届	40	1	41
消 防 計 画 届	44	2	46
圧 縮 ア セ チ レ ン ガ ス 等 の 貯 蔵 ・ 取 扱 い の 届	11		11
ネ オ ン 管 灯 設 置 届			0
指 定 可 燃 物	2		2
合 計	493	15	508

10.各種届出受理件数(過去5年間の比較)

年度 届出種別	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
炉・かまど設置届	6	15	2	3	3
ボイラー設置届	15	2	11	9	6
サウナ設備		2		1	1
変電設備設置届	11	5	4	6	12
発電設備設置届	2	2	4	3	5
蓄電池設備設置届	5	5	5	3	6
乾燥設備設置届	1			1	
水素ガス気球設置届					
少量危険物貯蔵取扱届	5	3	13	10	10
火災とまぎらわしい行為の届	184	186			169
煙火打上届	3	4		1	3
催物開催届					
道路工事占用届	87	83			162
水道断水減水届					
防火対象物使用開始届	27	39	28	27	31
防火管理者選任解任届	41	53	49	41	41
消防計画届	47	57	56	51	46
圧縮アセチレンガス等の 貯蔵・取扱いの届	9	7	8	11	11
ネオン管灯設置届					
指定可燃物			1	1	2
合 計	443	463	181	168	508

11.市村別危険物施設状況

種 別 \ 市 村 別		美作市	西粟倉村	合 計
製 造 所		3		3
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	22		22
	屋外タンク貯蔵所	6		6
	屋内タンク貯蔵所	3		3
	地下タンク貯蔵所	35	1	36
	簡易タンク貯蔵所	4		4
	移動タンク貯蔵所	14		14
	屋 外 貯 蔵 所	2		2
	小 計	86	1	87
取 扱 所	給 油 取 扱 所	30	1	31
	一 般 取 扱 所	27		27
	第 一 種 取 扱 所			0
	第 二 種 取 扱 所			0
	小 計	57	1	58
合 計		146	2	148

12.危険物数量別施設状況

数 量 別 区 分		5倍以下	5倍を超え 10倍以下	10倍を超え 50倍以下	50倍を超え 100倍以下	100倍を超え 150倍以下	150倍を超え 200倍以下	200倍を超え 1,000倍以下	1,000倍を超え 5,000倍以下	5,000倍を超え 10,000倍以下	10,000倍を 超えるもの	総計
合 計		57	33	23	13	9	5	8	0	0	0	148
製 造 所				1		1		1				3
貯 蔵 所	小 計	42	22	10	6	4	0	3	0	0	0	87
	屋 内 貯 蔵 所	12	6		2	2						22
	屋外タンク貯蔵所	2	2	2								6
	屋内タンク貯蔵所		3									3
	地下タンク貯蔵所	12	11	6	2	2		3				36
	簡易タンク貯蔵所	4										4
	移動タンク貯蔵所	12			2							14
	屋 外 貯 蔵 所			2								2
取 扱 所	小 計	15	11	12	7	4	5	4	0	0	0	58
	給 油 取 扱 所	3	3	5	7	4	5	4				31
	第 1 種 取 扱 所											0
	第 2 種 取 扱 所											0
	一 般 取 扱 所	12	8	7								27

13. 危険物関係事務処理状況

製造所等の別 事務内容		製造所	貯 蔵 所							取 扱 所				合 計
			屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	給油取扱所	一般取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	
許可	設置													0
	変更									2				2
完成検査	設置					1					1			2
	変更							1		3				4
タンク検査	水 張													0
	水 圧													0
仮 使 用 承 認										1				1
類・品名・数量変更		1												1
廃 止 届						2		1						3
変 更 届		5	8		1	6			2	13	4			39
合 計														52

14. 危険物関係査察実施状況

区 分	製 造 所	貯 蔵 所								取 扱 所					合 計
製造所等 の別		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小 計	給油取扱所	一般取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	小 計	
施設数	3	22	6	3	36	4	14	2	87	31	27			58	148
査察件数	1	5	1		13	1	12		32	19	13			32	65
査察率(%)	33%	23%	17%	0%	36%	25%	86%	0%	37%	61%	48%			55%	44%

15.過去5年間の施設別設置許可件数

種別 \ 年度別	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
製 造 所					
屋 内 貯 蔵 所					
屋 外 タンク 貯 蔵 所					
屋 内 タンク 貯 蔵 所	1				
地 下 タンク 貯 蔵 所			1	2	
簡 易 タンク 貯 蔵 所					
移 動 タンク 貯 蔵 所			1		
屋 外 貯 蔵 所					
給 油 取 扱 所					
一 般 取 扱 所	1		1	1	
合 計	2	0	3	3	0

火 災

建 物 火 災 ・ ・ ・ ・ ・ 11 件

林 野 火 災 ・ ・ ・ ・ ・ 0 件

車 両 火 災 ・ ・ ・ ・ ・ 1 件

そ の 他 の 火 災 ・ ・ ・ ・ ・ 16 件

合 計 ・ ・ ・ ・ ・ 28 件

令和6年 火災の概要

1 火災件数

令和6年中における火災の総件数は28件で昨年と同件数でした。

市村別にみますと、美作市は28件、西粟倉村が0件でした。

また、火災種別をみますと、建物火災は11件（前年比＋3件）、林野火災は0件（前年比－5件）、車両火災は1件（前年比－2件）、その他の火災^{※1}は16件（前年比＋4件）発生しています。

全件数のうち、その他の火災が全火災の57パーセントを占めています。

出火率^{※2}については、美作市が10.7件/万人でした（令和5年全国（確定値）3.08件/万人）。

2 火災損害及び建物焼損面積

令和6年中の火災損害額は66,220千円（前年比＋47,727千円）となっており、このうち建物火災の損害額は、53,809千円（前年比＋38,717千円）で建物焼損床面積は、839平方メートル（前年比＋268平方メートル）、建物焼損表面積は、11平方メートル（前年比＋2平方メートル）となっています。

また、焼損棟数につきましては、16棟（前年比＋3棟）で、このうち全焼は7件（前年比＋1件）、半焼は2件（前年比＋2件）、部分焼は4件（前年比同件数）、ぼやは3件（前年比同件数）となっています。

3 火災による死傷者

令和6年中の火災による死者^{※3}は1人で、前年と比較して同人数であり、建物火災によって死亡しています。

また、負傷者は6人で前年と比較して1人減少しており、そのうち5人がその他の火災、1人は車両火災で負傷しています。

4 出火原因

出火原因の割合は、「火入れ」が最も多く8件（29%）、「放火の疑い」が6件（21%）、「その他^{※4}」が4件（14%）、「配線器具」が2件（7%）、「不明」が2件（7%）とつづき、「たばこ」、「こんろ」、「こたつ」、「煙突・煙道」、「電気機器」、「たき火」が各1件となっています。

「火入れ」が原因で発生した火災の8件全てが、刈り取った草や枯れ草を焼却中に、他に延焼し火災となっています。

5 住宅用火災警報器の設置状況

令和6年中の建物火災のうち、空き家や物置などを除く住宅用火災警報器を設置しなければならない建物は7棟ありましたが、2棟が住宅用火災警報器を設置されていました。

6 火災の傾向及び今後の対策

火災総件数については、過去5年間19件から28件で推移していますが、出火原因はいずれも「火入れ」が最も多くなっています。

月別の火災件数を見ると、火災総件数28件のうち6件が9月に発生しており、6件のうちその他の火災が5件を占めています。

また、曜日・時間別に見ると、曜日別は金曜日の火災発生が最も多くなっており、時間別は12時から14時に多く発生している傾向です。

このことから分かるように、休日前の日中に枯草焼きなどを行っていることが、火災件数の増加につながっているものであると考えられます。

出火率は全国平均の3.1件/万人と比較しても、約3.0倍の10.7件/万人となっていることから、火災件数の増加につながる枯れ草焼きなどについて、より一層、注意喚起を行う必要があります。

※1 火災種別のうち、建物火災、林野火災、車両火災、船舶火災、航空機火災のいずれにも該当しないものを「その他の火災」として分類しています。

※2 出火率とは人口1万人あたりの出火件数です。

人口については、令和6年12月31日現在の美作市及び令和7年1月1日現在の西粟倉村の住民基本台帳に基づいています(美作市、24,882人、西粟倉村1,331人、合計26,213人)。

※3 火災による負傷後48時間以内に死亡した者を、「火災による死者」としています。

※4 その他の原因とは、製品の切り忘れや、金属加工による火花などからによる出火を総称しています。

(注1) 割合(%)については、小数点以下を四捨五入して計算しているため、合計が100%とならない場合があります。

(注2) 表1の出火率は管内(美作市、西粟倉村)であり、表2の出火率は美作市と西粟倉村とを分けているため、表1と表2の出火率は同じではありません。

1 火災発生状況及び前年との比較

区分		令和 6 年 (A)	令和 5 年 (B)	対象年増減数 (A-B)
火災 (件) 数	総件数	28	28	0
	建物火災	11	8	3
	林野火災	0	5	▲ 5
	車両火災	1	3	▲ 2
	船舶火災	0	0	0
	航空機火災	0	0	0
	その他の火災	16	12	4
焼 損 棟 数	総数	16	13	3
	全焼	7	6	1
	半焼	2	0	2
	部分焼	4	4	0
	ぼや	3	3	0
焼 損 面 積	建物焼損床面積 (㎡)	839	571	268
	建物焼損表面積 (㎡)	11	9	2
	林野焼損面積 (a)	1	1,114	▲ 1,113
焼損台数 (台)		2	5	▲ 3
死 (傷 人 者)	死者	1	1	0
	負傷者	6	7	▲ 1
り (災 世 帯 帯)	総数	8	5	3
	全損	4	2	2
	半損	1	0	1
	小損	3	3	0
損 害 額 (千 円)	合計	66,220	18,493	47,727
	建物火災	53,809	15,092	38,717
	林野火災	0	1,562	▲ 1,562
	車両火災	2,008	1,742	266
	船舶火災	0	0	0
	航空機火災	0	0	0
	その他火災	12	97	▲ 85
	爆発	10,391	0	10,391
出火率 (件/万人)		10.7	10.4	0.3

2 市村別・月別・種別別火災発生状況

区分	市町村	火災件数(件)							焼損棟数(棟)	り災		焼損面積			火災損害額(千円)	死傷者		出火率(件)
		合計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他		世帯数(世帯)	人員(人)	建物		林野(a)		死者(人)	負傷者(人)	
												床面積(㎡)	表面積(㎡)					
1月	美作市	1						1							1		1	
	西粟倉村	0																
2月	美作市	2						2										
	西粟倉村	0																
3月	美作市	3	1					2	1	1	2	44			12,582			
	西粟倉村	0																
4月	美作市	3	1					2	1	1	3				30			
	西粟倉村	0																
5月	美作市	1	1						1			26			4,285			
	西粟倉村	0																
6月	美作市	0																
	西粟倉村	0																
7月	美作市	1	1						1	1	2				1			
	西粟倉村	0																
8月	美作市	2	1					1	1	1	3	112			1,445		4	
	西粟倉村	0																
9月	美作市	6	1					5	1				3	1	6			
	西粟倉村	0																
10月	美作市	3			1			2							2,009		1	
	西粟倉村	0																
11月	美作市	3	3						8	3	4	649	8		45,801	1		
	西粟倉村	0																
12月	美作市	3	2					1	2	1	1	8			60			
	西粟倉村	0																
合計	美作市	28	11	0	1	0	0	16	16	8	15	839	11	1	66,220	1	6	11.3
	西粟倉村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	28	11	0	1	0	0	16	16	8	15	839	11	1	66,220	1	6	11.3

3 曜日・時間別火災発生状況

区分		火災件数(件)							構成比(%)	焼損棟数(棟)	り災		焼損面積			火災損害額(千円)	死傷者	
		合計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他			世帯数(世帯)	人員(人)	建物		林野(a)		死者(人)	負傷者(人)
													床面積(m ²)	表面積(m ²)				
曜日別火災発生状況	日曜日	3	1					2	11	1	1	2				1		
	月曜日	3	1					2	11	1	1	3	112			1,443		
	火曜日	6	4					2	21	8	4	7	287	8		21,276		5
	水曜日	3	2		1				11	1			5			12,431		1
	木曜日	5	1					4	18	3	1	1	391			18,480	1	
	金曜日	7	2					5	25	2	1	2	44	3	1	12,589		
	土曜日	1						1	4									
	合計	28	11	0	1	0	0	16	100	16	8	15	839	11	1	66,220	1	6
時間別火災発生状況	0～2	4	2					2	14	2	1	3	112	3	1	1,449		
	2～4	1	1						4	1	1	1	3			28		
	4～6	0							0									
	6～8	2			1			1	7							2,008		1
	8～10	2	1					1	7	1	1	2				2		1
	10～12	2	1					1	7							10,393		4
	12～14	7	1					6	25	1			26			4,294		
	14～16	3	1					2	11	3	1	1	391			18,480	1	
	16～18	1	1						4	1			5			32		
	18～20	2	2						7	6	3	5	302	8		29,504		
	20～22								0									
	22～24	3						3	11									
	不明	1	1						4	1	1	3				30		
	合計	28	11	0	1	0	0	16	100	16	8	15	839	11	1	66,220	1	6

4 市村別建物火災程度・損害状況

区分	火元(棟)				類焼(棟)				り災		焼損面積			焼損車両(台)	火災損害額(千円)	死傷者	
	全焼	半焼	部分焼	ぼや	全焼	半焼	部分焼	ぼや	世帯数(世帯)	人員(人)	建物		林野(a)			死者(人)	負傷者(人)
											床面積(m ²)	表面積(m ²)					
美作市	4	2	1	2	3	0	3	1	8	15	839	11	1	2	66,220	1	6
西栗倉村																	
合計	4	2	1	2	3	0	3	1	8	15	839	11	1	2	66,220	1	6

区分	火災損害額(千円)						
	建物火災			林野	車両	その他	合計
	建物	収容物	小計				
美作市	47,324	16,876	64,200	0	2,008	12	66,220
西栗倉村	0	0	0	0	0	0	0
合計	47,324	16,876	64,200	0	2,008	12	66,220

5 原因別火災発生状況

区分	火災件数(件)							構成比(%)	焼損棟数(棟)	り災		焼損面積			火災損害額(千円)	死傷者	
	合計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他			世帯数(世帯)	人員(人)	建物		林野(a)		死者(人)	負傷者(人)
												床面積(m ²)	表面積(m ²)				
たばこ	1						1	4									
こんろ	1	1						4	1	1	2				1		
こたつ	1	1						4	5	2	3	258	8		16,930		
風呂かまど	0							0									
炉	0							0									
焼却炉	0							0									
ストーブ	0							0									
ボイラー	0							0									
煙突・煙道	1	1						4	1	1	2	44			12,574		
排気管	0							0									
電気機器	1	1						4	1	1	1	3			28		
電灯・電話等の配線	0							0									
内燃機関	0							0									
配線器具	2	2						7	1	1	3	112			11,834		
火あそび	0							0									
マッチ・ライター	0							0									
たき火	1	1						4	1			5			32		
溶接機・溶断機	0							0									
灯火	0							0									
衝突の火花	0							0									
取灰	0							0									
火入れ	8						8	29							3		4
放火	0							0									
放火の疑い	6	1					5	21	1				3	1	6		
不明	2	2						7	4	1	1	417			22,765	1	
その他	4	1		1			2	14	1	1	3				2,047		2
合計	28	11	0	1	0	0	16	100	16	8	15	839	11	1	66,220	1	6

6 過去5年間の火災発生状況

区分		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
火災 (件) 数	総数	21	19	29	28	28
	建物火災	6	6	9	8	11
	林野火災	4	2	7	5	0
	車両火災	4	3	1	3	1
	船舶火災	0	0	0	0	0
	航空機火災	0	0	0	0	0
	その他の火災	7	8	12	12	16
焼 損 (棟) 数	総数	8	16	11	13	16
	全焼	5	11	1	6	7
	半焼	0	1	2	0	2
	部分焼	2	2	6	4	4
	ぼや	1	2	2	3	3
焼 損 面 積	建物焼損床面積(㎡)	428	1043	207	571	839
	建物焼損表面積(㎡)	168	73	18	9	11
	林野焼損面積(a)	5	2	1	1114	1
焼損台数(台)		2	4	4	5	2
死 (人) 傷 者	死者	0	1	0	1	1
	負傷者	3	1	5	7	6
り (世 帯) 災 害	総数	2	4	4	5	8
	全損	1	4	1	2	4
	半損	0	0	0	0	1
	小損	1	0	3	3	3
火災 損 害 額 (千円)	合計	11,016	43,965	27,225	18,493	66,220
	建物火災	10,187	42,794	26,838	15,092	53,809
	林野火災	156	19	41	1,562	0
	車両火災	597	916	320	1,742	2,008
	船舶火災	0	0	0	0	0
	航空機火災	0	0	0	0	0
	その他の火災	76	236	26	97	12
	爆発	0	0	0	0	10,391
出火率(件/万人)		7.4	6.4	10.6	10.4	10.7

7 過去5年間の火災発生状況と主な出火原因

区分		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
火災件数(件)		21	19	29	28	28
火災損害額(千円)		11,016	43,959	27,225	18,493	66,220
1	出火原因	火入れ	火入れ	火入れ	火入れ	火入れ
	件数(件)	9	7	14	9	8
2	出火原因	電灯・電話等の配線	たばこ	ストーブ	その他	放火の疑い
	件数(件)	3	3	2	7	6
3	出火原因	不明	不明	煙突・煙道	たばこ	その他
	件数(件)	2	3	1	2	4
4	出火原因	こたつ	放火	放火	たき火	配線器具
	件数(件)	1	1	1	2	2
5	出火原因	排気管	風呂かまど	風呂かまど	放火の疑い	不明
	件数(件)	1	1	1	2	2

救 急

出場件数 ・ ・ ・ ・ 1,903 件

1 日 平 均 ・ ・ ・ ・ 5.2 件

搬 送 人 員 ・ ・ ・ ・ 1,805 人

令和 6 年 救急の概要

令和 6 年中の美作市の救急出場件数は 1,903 件、救急搬送人員は 1,805 人となりました。昨年と比較すると出場件数は 133 件、搬送人員は 103 人の減少となりました。

令和 5 年中の岡山県救急出場件数は 104,564 件、全国救急出場件数は 763 万 7,967 件となっています。

1. 救急出場件数は 1 日平均 5.2 件。管内人口の 14 人に 1 人が救急搬送されたことになります。
2. 救急による搬送人員のうち、65 歳以上の高齢者の占める割合が高く 75.6%（全搬送人員の内 1,364 人）で、前年の 77.1%から 1.5%の減少となりました。
3. 事故種別別出場件数は、急病 1,193 件（62.7%）、一般負傷 316 件（16.6%）、転院搬送 213 件（11.2%）、交通 81 件（4.3%）の順となっています。
4. 署所別の救急出場件数は、本署 1,433 件（75.3%）、大原出張所 424 件（22.3%）、英田駐在所 31 件（1.6%）、勝田駐在所 15 件（0.8%）となっています。
5. 現場到着所要時間は、覚知（119 番通報）から平均で 12.3 分となっており、医療機関等収容所要時間は覚知から平均 50.0 分となっています。

1. 月別救急出場件数

(単位：件)

区分 月別	救 急 事 故 種 別												出 場 件 数
	火 災	自然 災害	水 難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損 行 為	急 病	転 院 搬 送	そ の 他	
1 月	1	0	0	5	2	0	22	0	1	106	17	0	154
2 月	0	0	0	6	5	1	26	0	1	100	21	0	160
3 月	0	0	0	13	2	4	26	0	1	95	19	0	160
4 月	0	0	0	2	1	4	28	0	0	87	20	0	142
5 月	0	0	0	5	0	5	28	0	1	87	13	1	140
6 月	0	0	1	7	2	5	16	1	2	83	15	0	132
7 月	0	0	0	7	3	4	26	0	2	88	10	1	141
8 月	2	0	0	10	4	6	30	0	1	127	15	0	195
9 月	0	0	1	5	7	6	29	0	0	115	14	0	177
10月	1	0	0	3	1	2	27	0	1	83	17	0	135
11月	0	0	0	9	3	7	25	0	1	100	21	0	166
12月	0	0	0	9	1	3	33	0	2	122	31	0	201
合計	4	0	2	81	31	47	316	1	13	1,193	213	2	1,903

最も多い月は12月で201件、最も少ないのは6月で132件となり、救急件数は昨年比133件の減少となっています。12月は季節性のインフルエンザ感染症や、依然続く新型コロナウイルス感染症の流行の影響で、救急件数が増加したと考えられます。

救急種別件数では「急病」1,193件（－45件）、「一般負傷」316件（－3件）、「交通事故」81件（－2件）、「その他」313件（－83件）となっています。「その他」には転院搬送213件が含まれています。昨年の2,036件に比べると大幅な減少となっています。

２．月別救急搬送人員

(単位：人)

区分 月別	救 急 事 故 種 別												搬送人員
	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	
1月	1	0	0	2	2	0	20	0	0	98	17	0	140
2月	0	0	0	7	6	1	24	0	0	94	21	0	153
3月	0	0	0	12	3	4	26	0	1	88	19	0	153
4月	0	0	0	2	1	4	26	0	0	78	20	0	131
5月	0	0	0	5	0	5	27	0	1	84	13	0	135
6月	0	0	0	7	2	4	16	0	1	77	15	0	122
7月	0	0	0	7	2	4	25	0	1	86	10	0	135
8月	2	0	0	8	4	6	30	0	0	124	15	0	189
9月	0	0	0	5	7	6	29	0	0	110	14	0	171
10月	1	0	0	3	1	2	27	0	0	79	17	0	130
11月	0	0	0	6	3	8	24	0	1	95	21	0	158
12月	0	0	0	8	1	3	32	0	1	112	31	0	188
合計	4	0	0	72	32	47	306	0	6	1,125	213	0	1,805

急病が全搬送人員の62.3%（1,125人）を占めており、一般負傷17%（306人）、転院搬送11.8%（213人）の順になっています。

３．出場場所地区別救急出場件数

(単位：件)

		美作市	西栗倉村	高速道路	管轄外	高規格道路	合計
救急事故 種別	火災	4	0	0	0	0	4
	自然災害	0	0	0	0	0	0
	水難	2	0	0	0	0	2
	交通事故	75	3	2	0	1	81
	労働災害	30	1	0	0	0	31
	運動競技	47	0	0	0	0	47
	一般負傷	309	6	1	0	0	316
	加害	1	0	0	0	0	1
	自損行為	10	3	0	0	0	13
	急病	1,147	39	7	0	0	1,193
	転院搬送	212	1	0	0	0	213
	その他	1	0	0	1	0	2
	合計	1,838	53	10	1	1	1,903

高規格道路とは鳥取自動車道及び美作岡山道路をさし、高速道路とは中国自動車道をさします。美作市が出場件数の96.6%（1,838件）を占めており、西栗倉村が2.8%（53件）となっている状況です。

４．署所別出場件数及び搬送人員

(単位：件)

	本署	出張所	英田駐在	勝田駐在	合計
出場件数	1,433	424	31	15	1,903
搬送人員	1,362	398	32	13	1,805

英田駐在は、英田地域の英田青野、尾谷、福本、奥、井口、三保原、真神、中川、上山、横尾、北、南、滝宮、作東地域の国貞、万善、柿ヶ原、鈴家、田渕地区に出場します。

勝田駐在は、勝田地域の右手、真殿、梶並、楮、久賀、東谷上・東谷下、清後地区を除く余野、長谷内、作東地域の梶原、小房、栗井中、小野、鷺巣地区に出場します。

各駐在の出場件数は、駐在滞在時の出場件数になります。

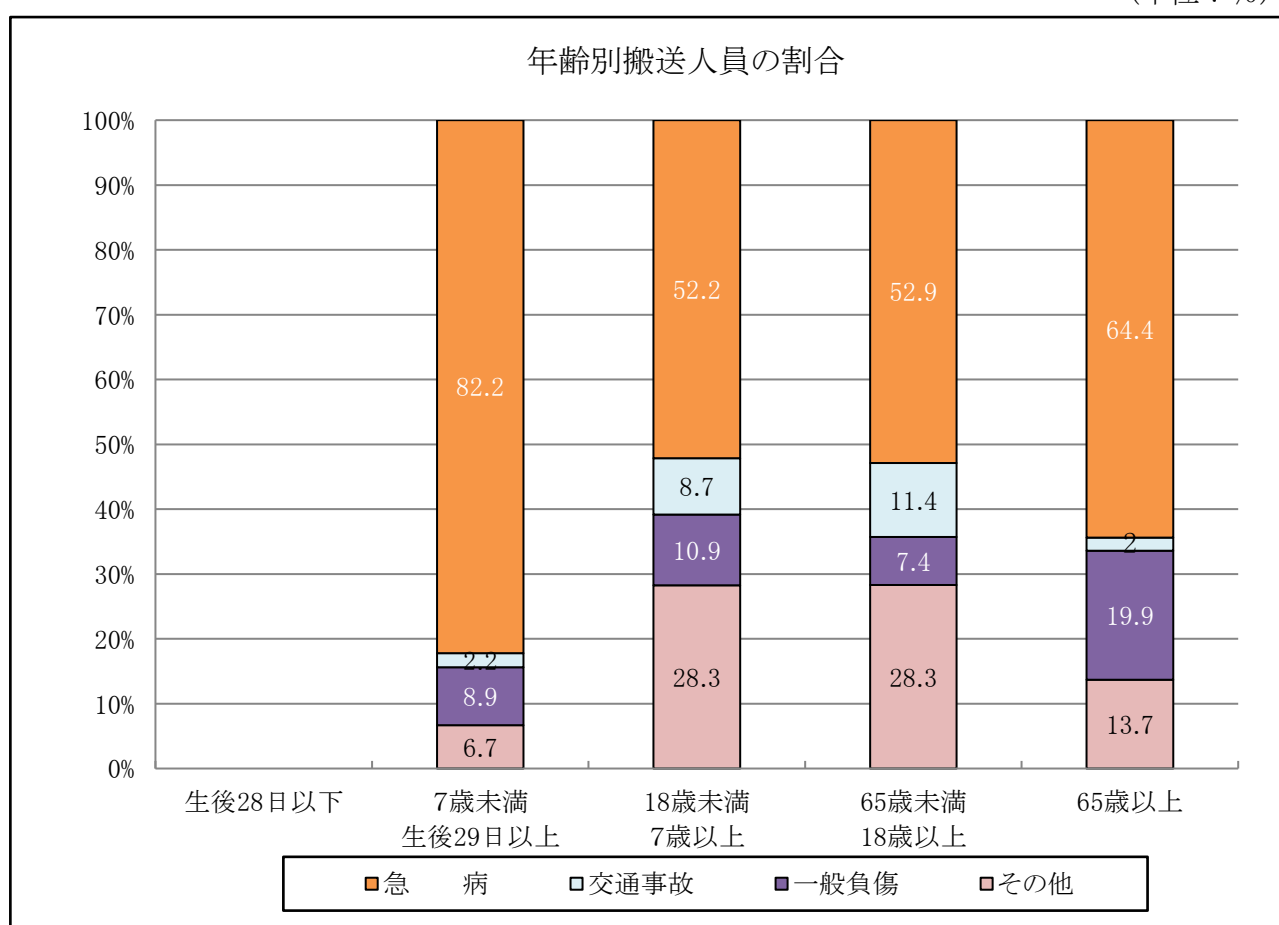
本署からの出場が75.3%（1,433件）、大原出張所が22.3%（424件）となっています。

5. 年齢別搬送人員

(単位：人)

	生後28日以下	生後29日以上 7歳未満	7歳以上 18歳未満	18歳以上 65歳未満	65歳以上	合 計
急 病	0	37	24	185	879	1,125
交通事故	0	1	4	40	27	72
一般負傷	0	4	5	26	271	306
そ の 他	0	3	13	99	187	302
合 計	0	45	46	350	1,364	1,805

(単位：％)



※ 「その他」の内訳

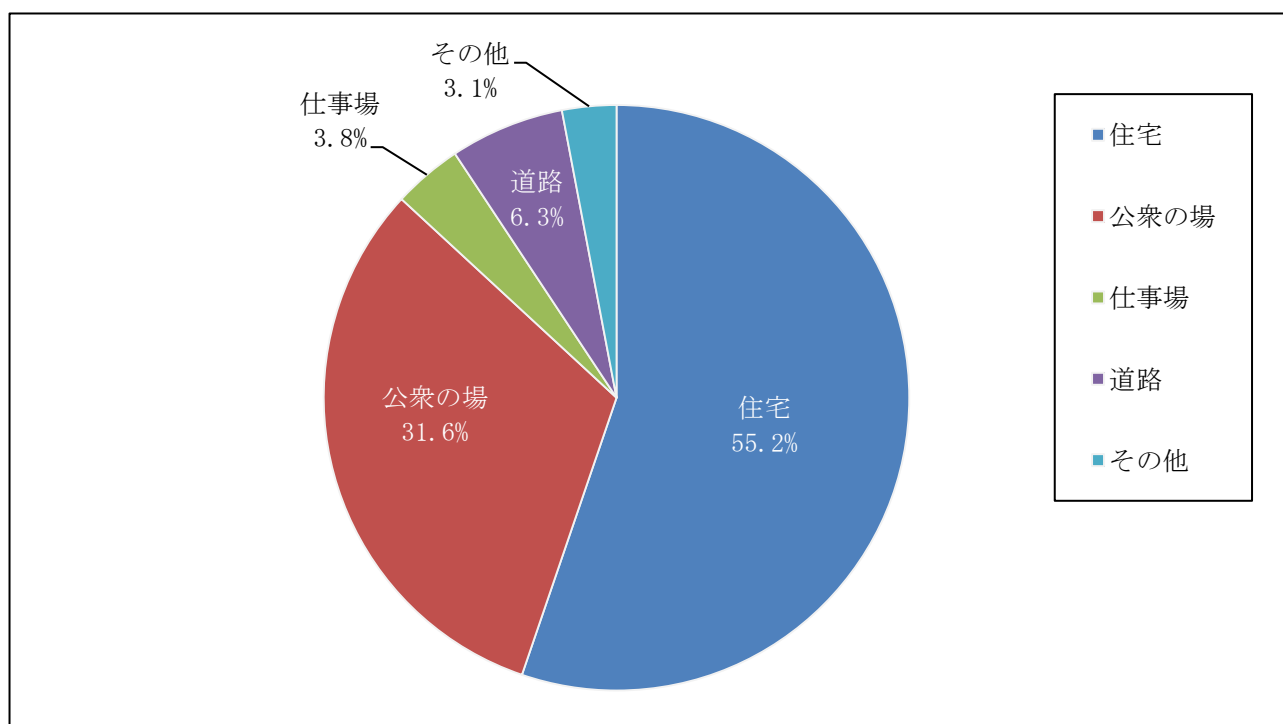
「水難」「労働災害」「運動競技」「加害」「自損行為」「転院搬送」

搬送人員のうち65歳以上の占める割合は75.6％（1,364人）となっており、搬送された65歳以上の急病割合は64.4％（879人）となっています。

6. 事故発生場所区分別搬送人員

(単位：人)

	住 宅	公 衆 の 場	仕 事 場	道 路	そ の 他	合 計
急 病	822	233	34	20	16	1,125
交 通 事 故	3	2	0	64	3	72
一 般 負 傷	169	75	4	27	31	306
そ の 他	3	261	31	3	4	302
合 計	997	571	69	114	54	1,805

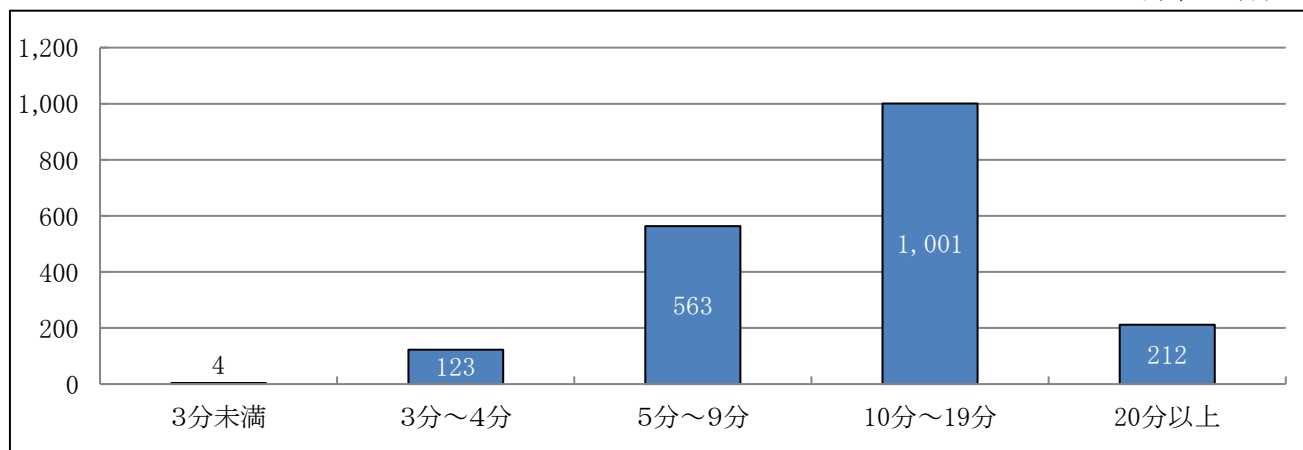


事故発生場所で最も多いのは住宅で、搬送人員の55.2%（997人）を占めています。住宅内で最も多い箇所は、居間や寝室を含む居室（749人）、次いで廊下（77人）、庭（53人）、台所（41人）の順となっています。

次に多いのが公衆の場で31.6%（571人）となっており、この中には転院搬送が含まれています。内訳として最も多い場所は、病院・診療所（210人）、次いで老人福祉施設等（195人）、運動場・競技場・各種スポーツ施設（53人）、旅館・ホテル（37人）となっています。

7. 現場到着所要時間別出場件数

(単位：件)

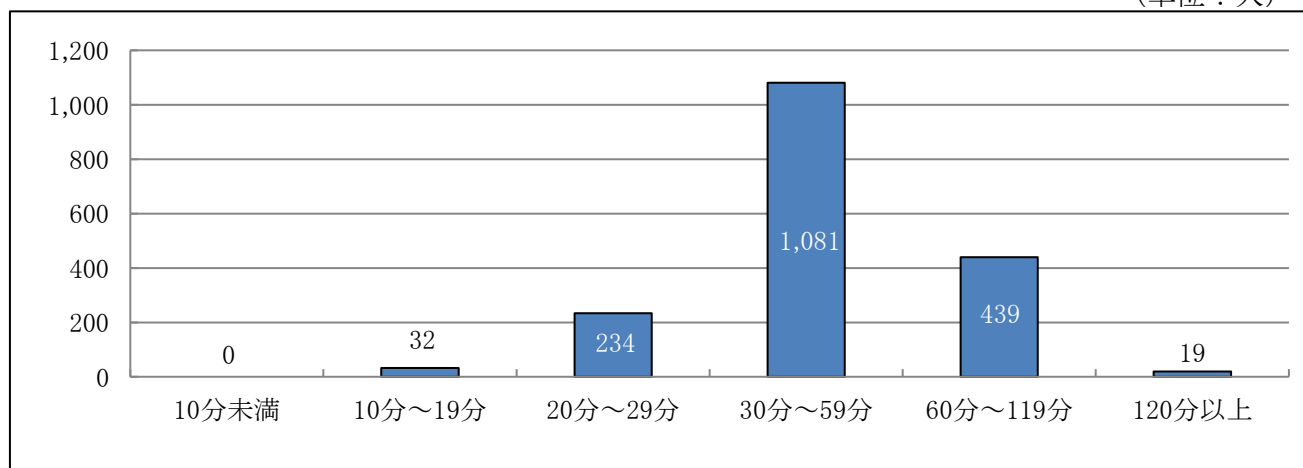


	急 病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
3分未満	3	0	0	1	4
3分～4分	33	2	12	76	123
5分～9分	341	23	84	115	563
10分～19分	689	45	184	83	1,001
20分以上	127	11	36	38	212
合 計	1,193	81	316	313	1,903

119番通報から現場に到着するまでに要した時間別出場件数を割合で見ると、36.3% (690件) は10分未満に到着していますが、11.1% (212件) は20分以上の時間を要しました。時間を要した理由は、現場が遠い又は管轄署所外への応援出場等が考えられます。

8. 医療機関等への収容時間別搬送人員

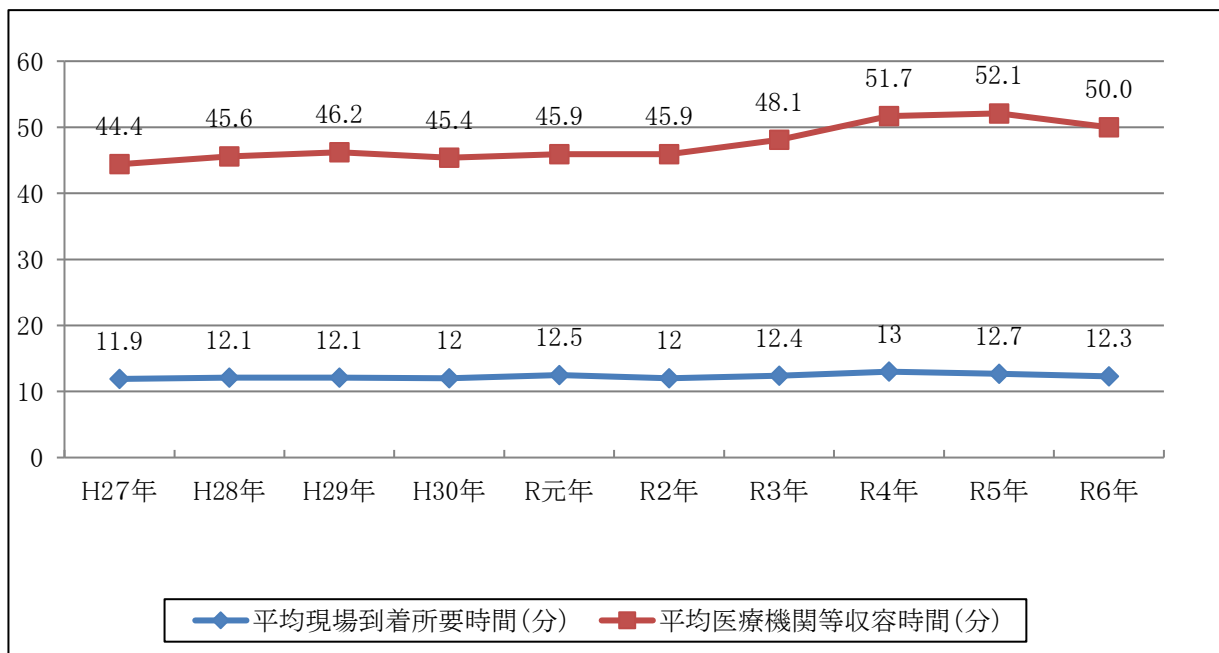
(単位：人)



	急 病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
10分未満	0	0	0	0	0
10分～19分	24	0	6	2	32
20分～29分	138	9	34	53	234
30分～59分	711	36	175	159	1,081
60分～119分	244	24	87	84	439
120分以上	8	3	4	4	19
合 計	1,125	72	306	302	1,805

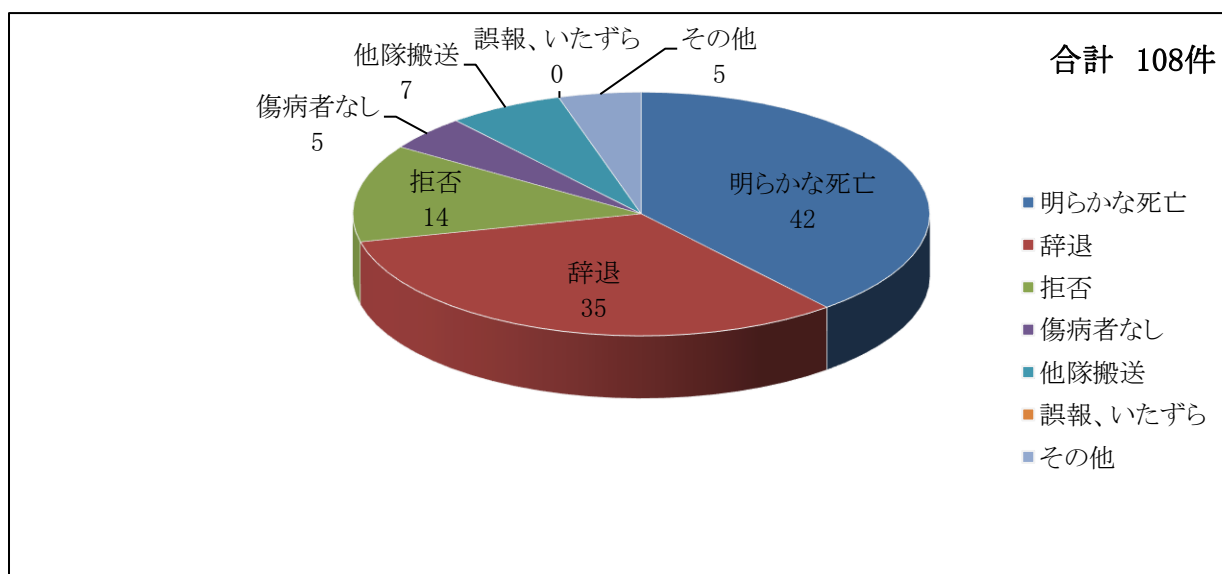
119番通報から医療機関へ収容するまでに要した時間別搬送人員を割合で見ると、74.6% (1,347人) は1時間未満に収容できましたが、25.4% (458人) は1時間以上の時間がかかっています。1時間以上要した理由は、現場から医療機関までの距離が長いこと、管轄外への転院搬送、受入先医療機関が決定しない等が考えられます。

9. 現場到着所要時間、医療機関等収容時間の推移状況 (単位:分)



現場到着所要時間と医療機関等への収容時間の平均を表しています。
 近年現場到着所要時間はさほど変化はなく横ばいですが、医療機関等収容時間は10年前と比べると5.6分延伸しています。
 医療機関等収容時間が延伸している原因は、救急隊の処置の高度化、収容医療機関への照会数増加、遠方の医療機関へ搬送や転院搬送等が考えられます。

10. 不搬送理由別不搬送件数 (単位:件)

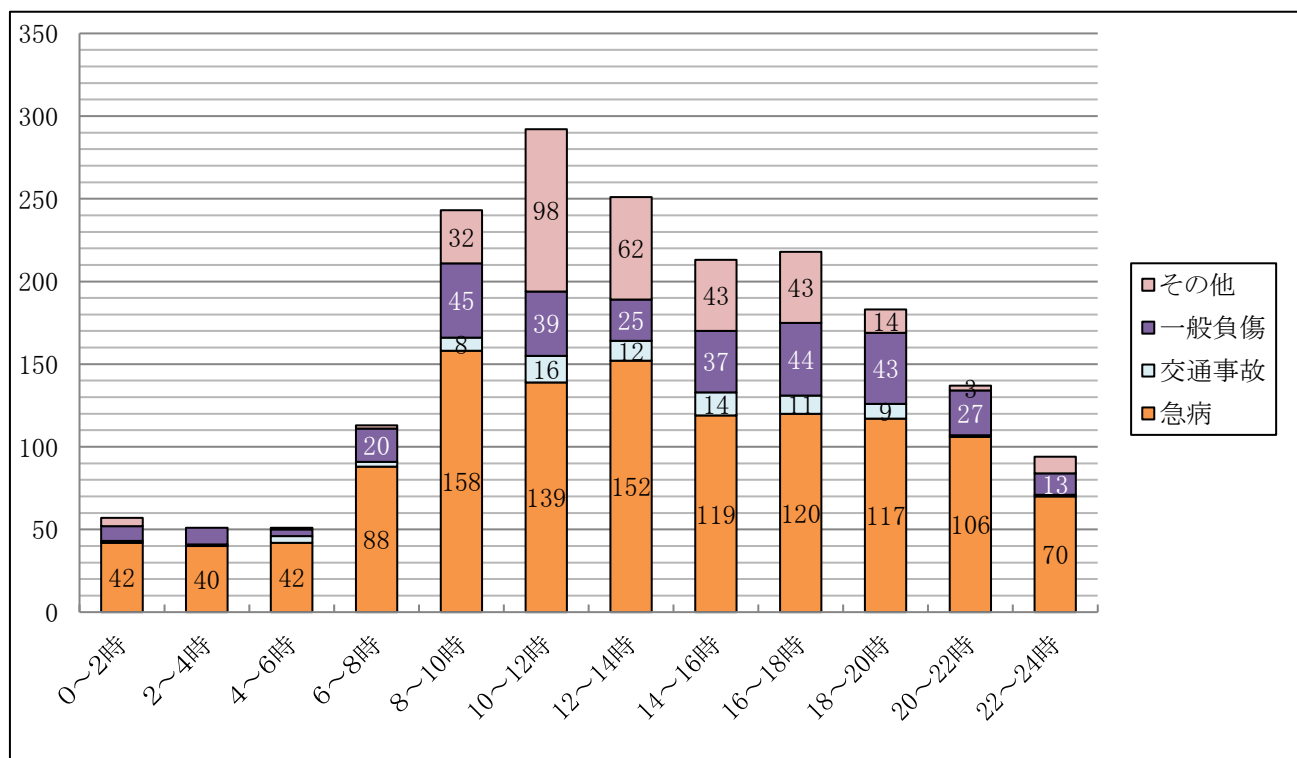


救急要請で出場したが、搬送に至らなかった事案は108件でした。
 その内、辞退が35件あり、現場到着前の辞退が8件、現場到着後の辞退が27件でした。
 理由別では42件の死亡が多く、救急隊到着時「明らかな死亡」と判断し搬送しなかったものです。

11. 時間帯別、事故種別別出場件数

(単位：件)

時間 区分	救 急 事 故 種 別												合 計
	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	転 院 搬 送	そ の 他	
0～2時	1	0	0	1	0	0	9	0	0	42	4	0	57
2～4時	0	0	0	1	0	0	10	0	0	40	0	0	51
4～6時	0	0	0	4	0	0	4	1	0	42	0	0	51
6～8時	0	0	1	3	0	0	20	0	0	88	1	0	113
8～10時	2	0	1	8	4	2	45	0	2	158	20	1	243
10～12時	1	0	0	16	10	11	39	0	3	139	73	0	292
12～14時	0	0	0	12	4	11	25	0	1	152	46	0	251
14～16時	0	0	0	14	6	12	37	0	3	119	22	0	213
16～18時	0	0	0	11	4	9	44	0	2	120	27	1	218
18～20時	0	0	0	9	1	2	43	0	0	117	11	0	183
20～22時	0	0	0	1	2	0	27	0	0	106	1	0	137
22～24時	0	0	0	1	0	0	13	0	2	70	8	0	94
合 計	4	0	2	81	31	47	316	1	13	1,193	213	2	1,903



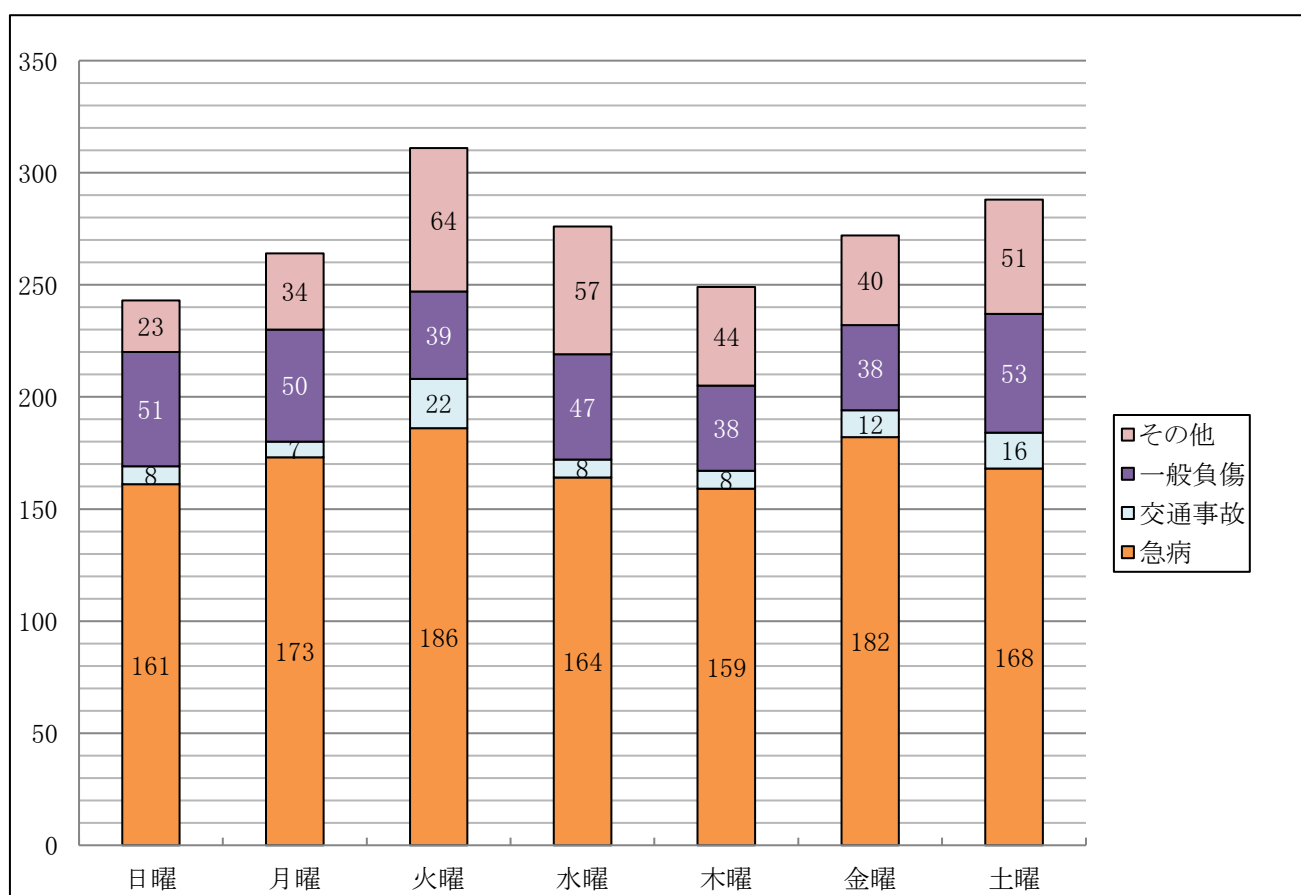
8時から18時の間は2時間当たり200件を超す出場となっています。22時～6時の間は2時間当たりの出場件数が100件を下回っており、人の活動と比例し出場が増えています。

事故種別別に見ると、一般負傷と急病は8時から22時の間で人の活動と共に多くなっており、交通事故にあつては8時から20時の間の通行量が多い時間帯に救急出場が多くなっています。

12. 曜日別、事故種別別出場件数

(単位：件)

区分 曜日	救 急 事 故 種 別												合 計
	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	転 院 搬 送	そ の 他	
日曜	0	0	0	8	2	11	51	0	1	161	9	0	243
月曜	1	0	0	7	4	3	50	0	0	173	26	0	264
火曜	2	0	0	22	7	7	39	0	1	186	47	0	311
水曜	1	0	1	8	6	6	47	1	2	164	40	0	276
木曜	0	0	0	8	2	1	38	0	2	159	38	1	249
金曜	0	0	0	12	5	4	38	0	4	182	27	0	272
土曜	0	0	1	16	5	15	53	0	3	168	26	1	288
合計	4	0	2	81	31	47	316	1	13	1,193	213	2	1,903



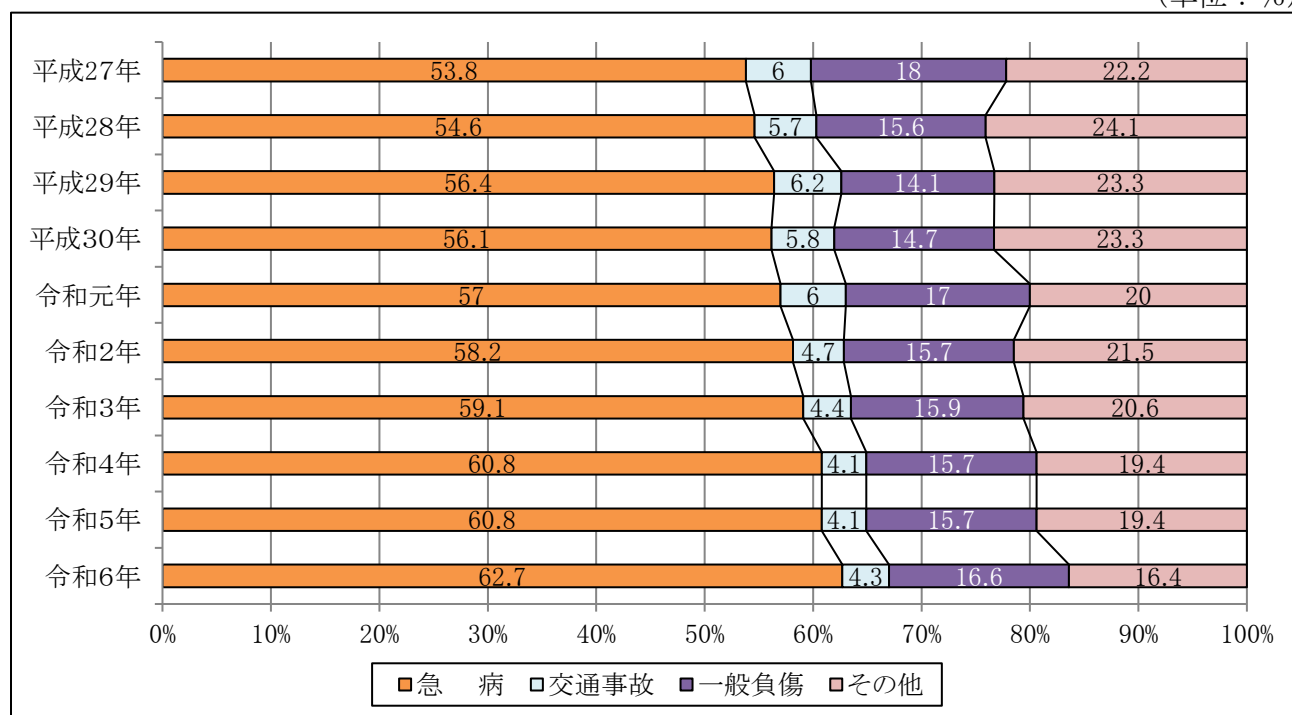
出場件数の内、火曜日（311件）が最も多く、次いで土曜日（288件）、水曜日（276件）の順になっています。事故種別別に見ると運動競技、一般負傷の土曜日と日曜日が増加傾向であり、各種イベントへの参加による人流の増加が考えられます。

13. 過去10年間の事故種別別出場件数

(単位：件)

区分 年別	救急事故種別												合 計
	火 災	自然 災害	水 難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損 行 為	急 病	転 院 搬 送	そ の 他	
平成27年	1	0	4	96	23	45	288	6	11	1,023	358	1	1,856
平成28年	1	0	3	112	13	54	336	2	19	1,006	320	3	1,869
平成29年	2	0	2	111	17	49	304	3	14	1,065	378	5	1,950
平成30年	3	0	2	125	15	55	284	1	14	1,137	374	5	2,015
令和元年	5	0	1	111	36	44	280	6	7	1,066	339	5	1,900
令和2年	3	0	1	97	17	19	276	0	12	927	266	7	1,625
令和3年	1	0	1	77	23	38	258	3	10	956	270	7	1,644
令和4年	4	0	2	86	22	51	314	4	13	1,164	300	9	1,969
令和5年	5	0	1	83	21	50	319	5	21	1,238	287	6	2,036
令和6年	4	0	2	81	31	47	316	1	13	1,193	213	2	1,903

(単位：%)



出場件数は1,903件で昨年と比べて133件減少しています。過去10年の平均出場件数(1,877件)と比べてみると26件多くなっています。

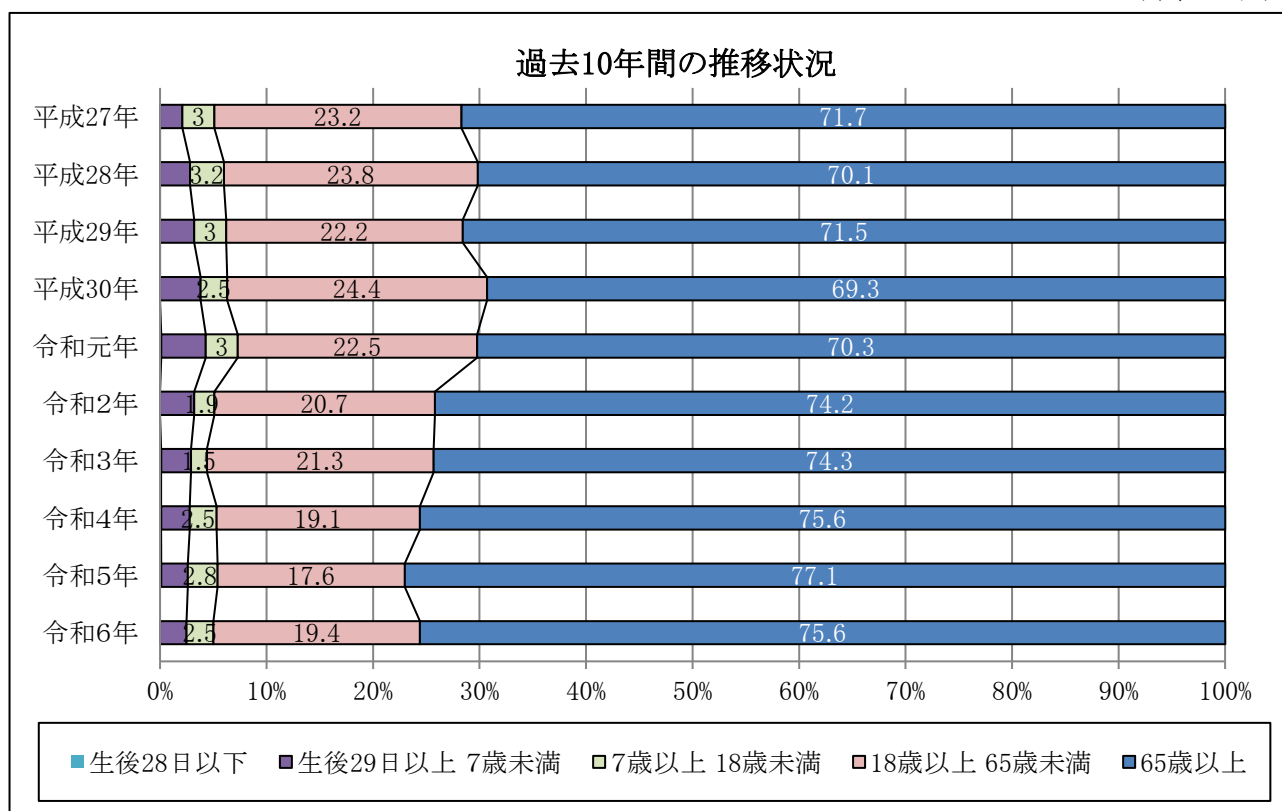
昨年と比べて、6～8月の夏場の出場件数の減少が、大幅な出場件数の減少に繋がっていると考えられます。

14. 過去10年間の年齢別搬送人員の状況

(単位：人)

	生後28日以下	生後29日以上 7歳未満	7歳以上 18歳未満	18歳以上 65歳未満	65歳以上	合 計
平成27年	0	37	54	412	1,276	1,779
平成28年	0	50	57	420	1,237	1,764
平成29年	0	60	56	411	1,324	1,851
平成30年	0	73	47	465	1,321	1,906
令和元年	1	76	54	410	1,278	1,819
令和2年	0	50	29	320	1,150	1,549
令和3年	1	43	24	330	1,153	1,551
令和4年	1	51	48	360	1,423	1,883
令和5年	1	47	53	336	1,471	1,908
令和6年	0	45	46	350	1,364	1,805

(単位：％)



高齢者（65歳以上）の搬送人員は昨年と比べると107人減少、成人（18歳以上65歳未満）の搬送人員は昨年に比べると14人増加となっています。

過去10年間の年齢別搬送人員の推移をみると、わずかではありますが65歳以上の高齢者の割合が増加傾向となっています。

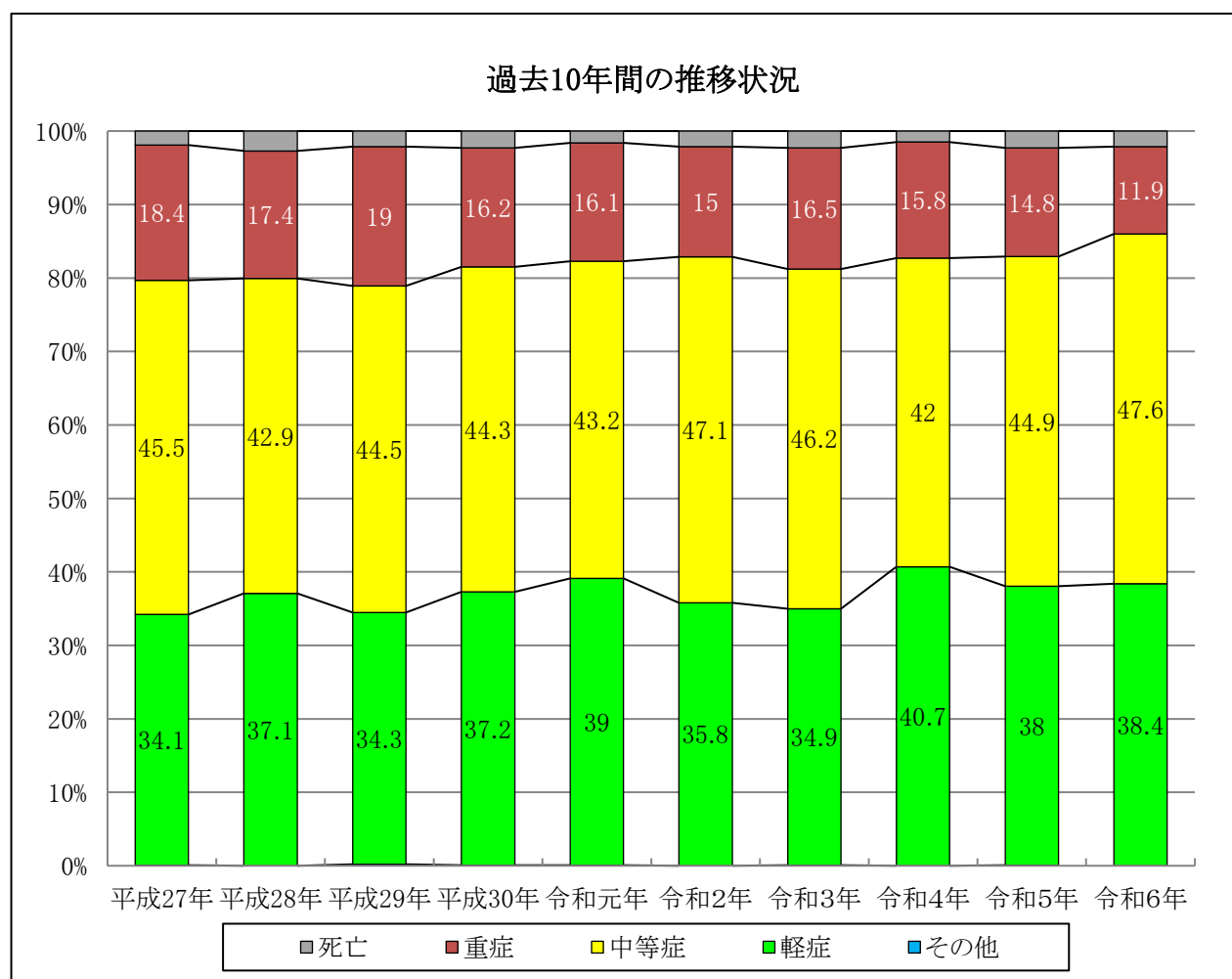
これは、65歳未満の人口が減少したことによる相対的な高齢化が原因と考えられます。

15. 過去10年間の傷病程度別搬送人員の状況

(単位：人)

程 度	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
死 亡	33	47	39	43	30	33	35	29	44	38
重 症	327	307	351	308	292	232	256	297	282	215
中等症	810	756	823	845	786	730	716	790	856	859
軽 症	607	654	634	709	709	554	542	767	725	693
その他	2	0	4	1	2	0	2	0	1	0
合 計	1,779	1,764	1,851	1,906	1,819	1,549	1,551	1,883	1,908	1,805

(単位：%)



傷病程度別でみると重症と軽症は減少、中等症は増加となっています。

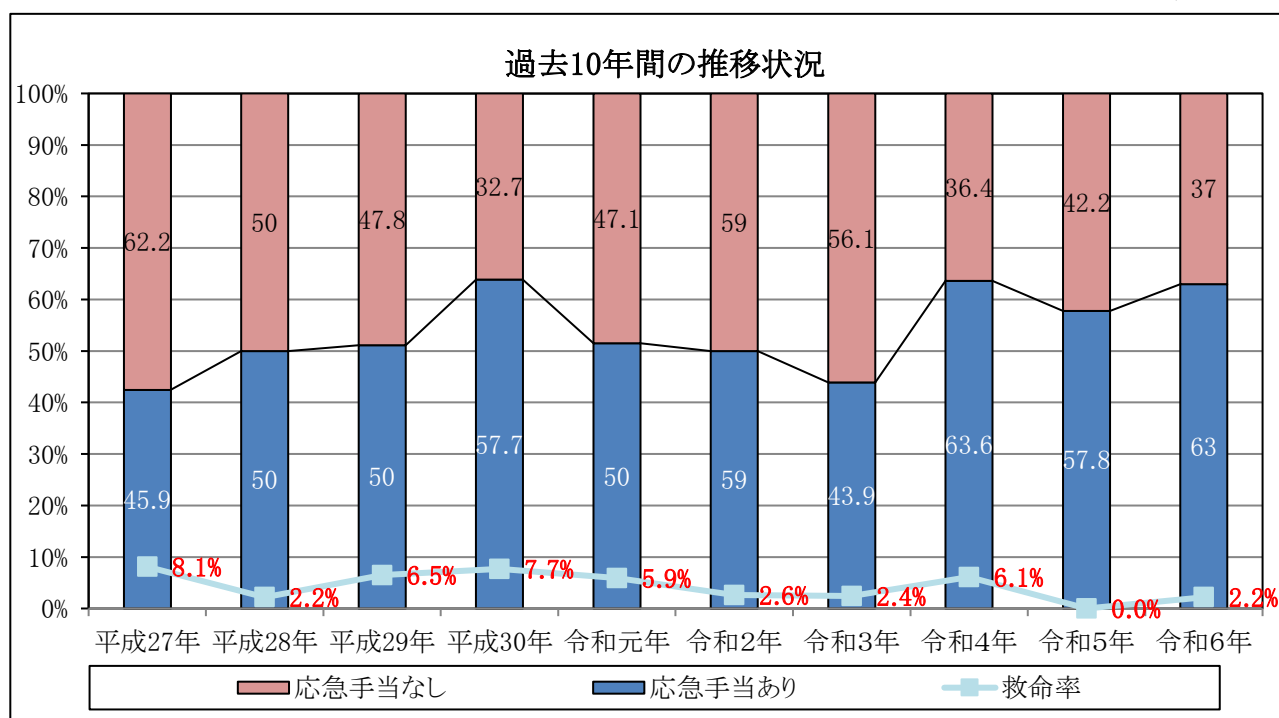
過去10年間の推移状況をみると、重症搬送は過去最少となり10年前と比べると6.4%の減少、中等症と軽症搬送は増減を繰り返しているものの全体割合は多くを占めています。

16. 過去10年間の心肺停止傷病者への一般市民による応急手当実施状況

(単位：人)

	心肺停止傷病者 搬 送 者 数	1 ヶ 月 後 の 生 存 者 数	一般市民による		一般市民による 応急手当なし
			応急手当あり	内AED使用	
平成27年	37	3	17	3	23
平成28年	46	1	23	6	23
平成29年	46	3	23	7	22
平成30年	52	4	30	8	17
令和元年	34	2	17	1	16
令和２年	39	1	23	4	23
令和３年	41	1	18	3	23
令和４年	33	2	21	3	12
令和５年	45	0	26	6	19
令和６年	46	1	29	4	17

(単位：％)



応急手当ありとは心肺停止傷病者に対して一般市民が心肺蘇生法を行ったもので、内AED使用とは、電気ショックの有無にかかわらず、一般市民がAEDを使用していたものです。

救命率とは心肺停止傷病者搬送者数に対する1ヶ月後の生存者数の割合です。

昨年と比べると、心肺停止傷病者搬送者数は1人増加しています。

一般市民による応急手当は昨年の57.8%より増加し63%となりました。

AEDの使用については4件となっています。

応急手当講習会参加人数は年間約1,400人とコロナ禍に比べ大幅に増加しており、10年前と比べても増加傾向にありますが、近年実施率の伸び悩みがあるため、さらなる応急手当講習会の普及に努め、救命率の増加を目指します。

救 助

出場件数・ ・ ・ ・ ・ 31 件

活動件数・ ・ ・ ・ ・ 20 件

令和 6 年 救助の概要

令和 6 年中の救助出場件数は 31 件、救助活動件数は 20 件で、昨年と比較すると出場件数は 4 件減っており、活動件数も 3 件の減少となりました。

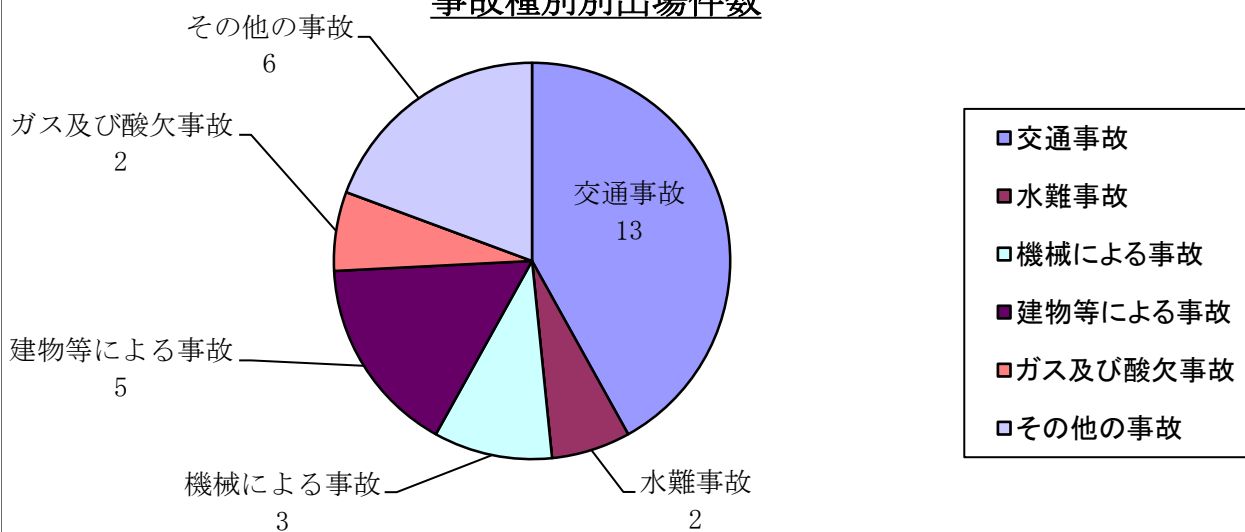
1. 事故種別別出場件数は、交通事故 13 件（41.9%）、建物等による事故 5 件（16.1%）、機械による事故 3 件（9.7%）、水難事故 2 件（6.5%）、ガス及び酸欠事故 2 件（6.5%）、その他の事故 6 件（19.3%）となっています。
2. 救助出場件数を事故種別で昨年と比較すると、最も多いのは昨年に引き続き交通事故ですが 3 件減っており、活動件数も 1 件減少しています。また、その他の事故を昨年と比較すると 7 件減少していますが、そのうち山岳での救助事案が 3 件含まれ毎年一定数の山岳事案が発生しています。
3. 事故発生地区では美作市が 30 件（96.8%）となっており、他には西栗倉村で 1 件（3.2%）発生しています。
4. 救助人員数 20 人の内、年齢別では 65 歳以上の方が最も多く 12 人救助されています。傷病程度では中等症以上の方が 12 人と、全救助人員の 6 割を占める形となりました。

1. 事故種別別救助出場件数・活動件数

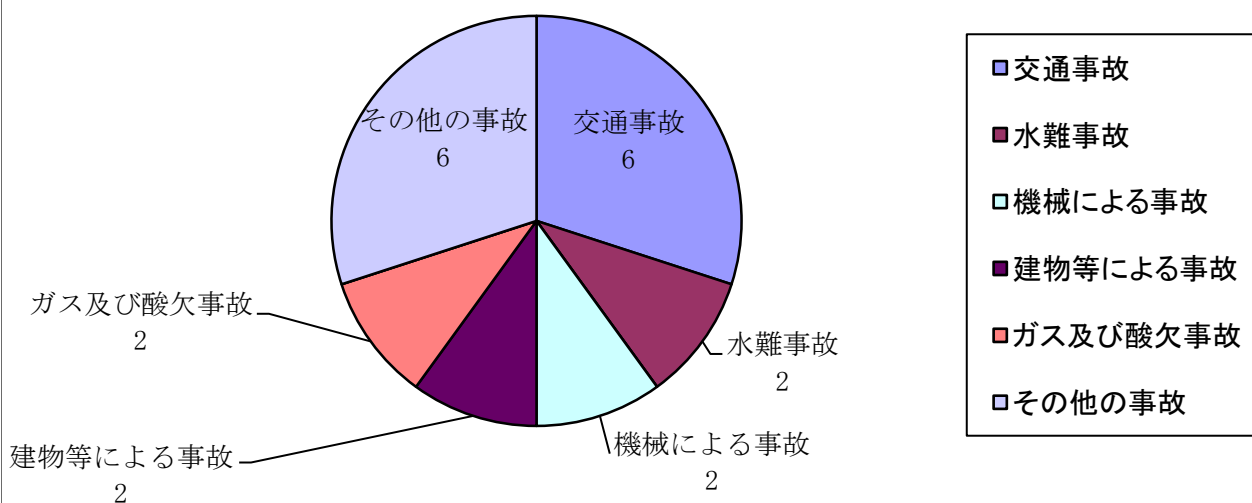
(単位：件)

事故種別 件数区分	火災		交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械によ る事故	建物等によ る事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合 計
	建物	建物以外									
出場件数	0	0	13	2	0	3	5	2	0	6	31
活動件数	0	0	6	2	0	2	2	2	0	6	20

事故種別別出場件数



事故種別別活動件数



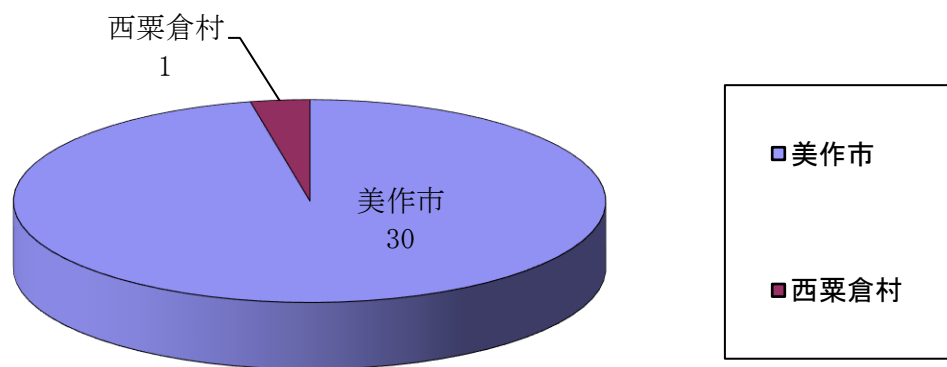
救助出動事案で活動した件数は20件で、交通事故とその他の事故がそれぞれ6件となっています。交通事故とその他の事故で、活動事案全体の6割を占めています。

2. 事故発生地区別救助出場件数・活動件数

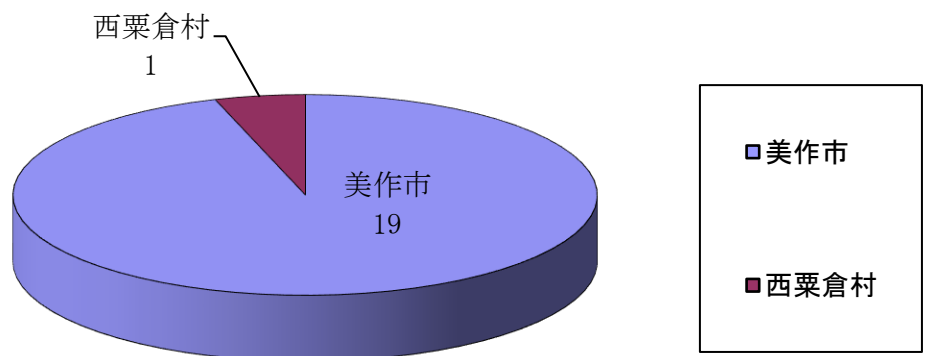
(単位：件)

市村別 件数区分	美作市	西栗倉村	中国道	管 外	高規格道路	合 計
救助出場件数	30	1	0	0	0	31
救助活動件数	19	1	0	0	0	20

市村別救助出場件数



市村別救助活動件数



事故発生場所別の救助出場件数の9割以上が美作市で発生しています。西栗倉村で1件発生していますが、中国道及び管外、高規格道路では救助事案が発生していません。

3. 救助人員における年齢区分別傷病程度

(単位：人)

年齢区分 傷病程度	0～6歳	7～17歳	18～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65歳以上	合 計
死 亡	0	0	0	1	1	2	0	1	5
重 症	0	0	0	0	0	0	1	2	3
中等症	0	0	0	0	0	0	0	4	4
軽 症	0	0	1	0	0	0	1	4	6
その他	1	0	0	0	0	0	0	1	2
合 計	1	0	1	1	1	2	2	12	20

救助人員とは救助活動により救出された人員です。
傷病程度別では、死亡が5人、重症が3人と重症以上が4割を占めています。
また、年齢区分別でみると65歳以上の高齢者の割合が6割を占めています。

4. 救助人員における事故種別傷病程度

(単位：人)

事故種別 傷病程度	火災	交通事故	水難	風水害等 自然災害	機械に よる事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合 計
死 亡	0	1	2	0	0	0	2	0	0	5
重 症	0	2	0	0	0	0	0	0	1	3
中等症	0	0	0	0	1	1	0	0	2	4
軽 症	0	3	0	0	1	0	0	0	2	6
その他	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
合 計	0	6	2	0	2	2	2	0	6	20

事故種別による傷病程度別では、交通事故とその他の事故がそれぞれ6人となっており、全体の6割を占めています。
また死亡事故は交通事故で1名、水難2名、ガス及び酸欠事故2名となっています。

5. 過去5年間の事故種別救助出場件数

(単位：件)

事故種別 年	火災		交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械に よる事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他 の事故	合 計
	建物	建物以外									
令和2年	0	0	22	1	0	1	1	1	0	5	31
令和3年	0	0	25	1	0	0	0	2	0	5	33
令和4年	0	0	16	2	0	0	0	0	0	15	33
令和5年	0	0	16	1	0	1	3	1	0	13	35
令和6年	0	0	13	2	0	3	5	2	0	6	31

過去5年の推移としては救助出動件数に大幅な増減はありませんが、交通事故が占める割合が高い水準となっています。その背景には、美作市消防本部管内の特徴で有る車社会の影響が大きいと考えられ、今後も高い水準が予想されます。

また、その他の事故の内訳として、山岳での救助事案が毎年一定数発生しています。

通 信

美作地区消防指令センター管内着信件数・・・16,665 件

美作市消防本部管内着信件数・・・・・・・2,442 件

令和 6 年 通信の概要

令和 6 年中の美作地区消防指令センター管内着信件数は16,665件、そのうち美作市消防本部管内着信件数は2,442件でした。

昨年と比較すると、美作地区消防指令センター管内着信件数は636件減少、美作市消防本部管内着信件数は272件減少となりました。

1. 美作地区消防指令センター管内の着信件数割合は救急11,969件（約72%）火災173件（約 1 %）、救助115件（約0.6%）、その他の災害72件（約0.4%）、災害以外の着信件数は4,336件（約26%）となっています。
2. 美作市消防本部管内の着信件数割合は救急1,812件（約74%）、火災23件（約 1 %）、救助21件（約 1 %）、その他の災害9件（約 1 %）、災害以外の着信件数は577件（約23%）となっています。
3. 美作地区消防指令センター管内での固定電話（IP電話含む）、及び携帯電話からの着信件数は、固定電話（IP電話含む）4,876件（約37%）、携帯電話8,474件（約63%）となっています。
4. 美作市消防本部管内での固定電話及び携帯電話からの着信件数は、固定電話（IP電話含む）1,227件（約50%）、携帯電話が1,213件（約50%）となっています。
5. 令和 6 年の着信件数を前年と比較してみますと、美作市消防本部管内の救急は（令和5年1921件/令和6年1812件）約6%減少、火災は（令和5年30件/令和6年23件）約23%減少となっています。
美作地区消防指令センター管内の救急は（令和5年11912件/令和6年11969件）季節性インフルエンザ感染症関連の通報が急増したため約1%増加、火災は（令和5年210件/令和6年173件）約18%減少しています。

1. 美作地区消防指令センター管内種別別着信件数の内 美作市消防本部管內着信件数の割合

(単位：件)

	火災	救急	救助	その他災害	間違い	通報訓練	試験	問い合わせ	重複	いたずら	取り止め	応答なし	火災通報装置	転送切断	合計
美作市消防本部管內着信件数(件)	23	1,812	21	9	86	97	14	107	82	10	10	60	110	1	2,442
美作地区消防指令センター管內着信件数(件)	173	11,969	115	72	668	983	246	744	528	69	53	483	528	34	16,665
美作市消防本部の割合(%)	13%	15%	18%	13%	13%	10%	6%	14%	16%	14%	19%	12%	21%	3%	15%

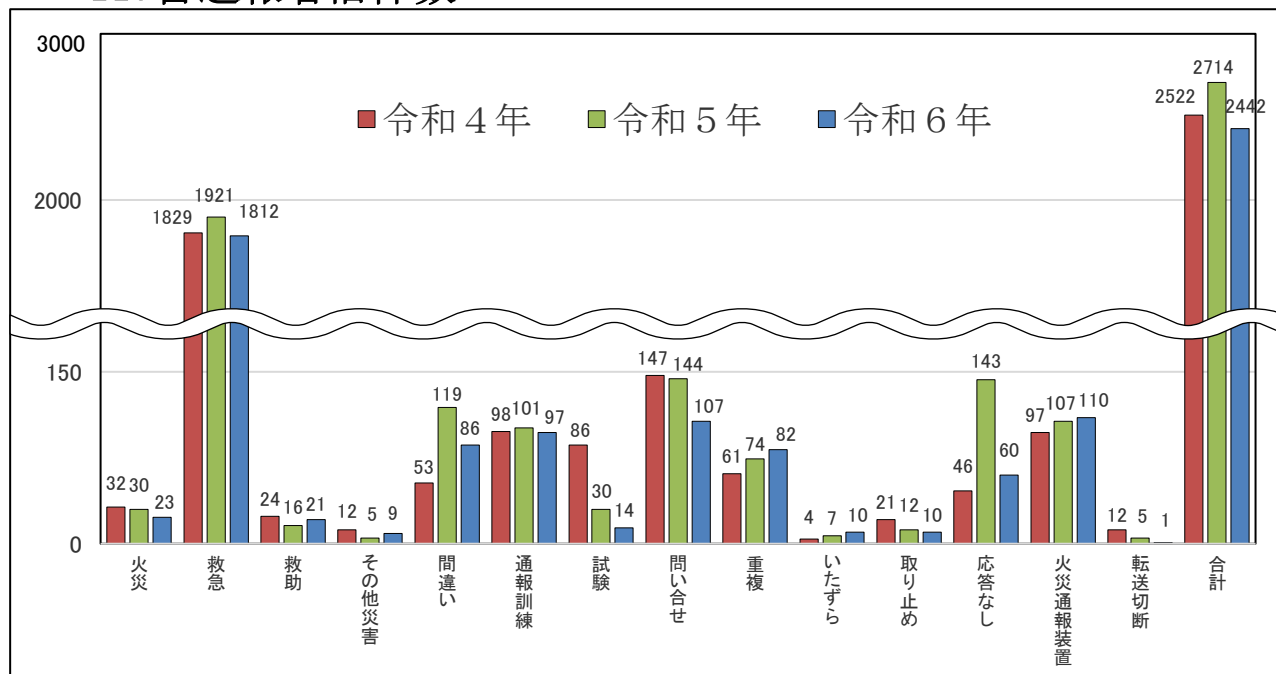
令和6年の美作地区消防指令センター着信件数に占める美作市消防本部管內着信件数の割合は全体の15%を占めています。昨年と比較すると割合は1%減少しており着信件数は272件減少しています。

内訳について、実災害の着信件数である「火災」「救急」「救助」「その他の災害」の着信件数は、昨年と比較すると「救助」と「その他の災害」の着信件数が増加し、「火災」「救急」の着信件数は減少しています。

「その他の災害」とは、火災通報装置からの通報による警戒出動、怪煙確認、危険物漏洩対応、ヘリ地上支援の災害出動を指します。

「応答なし」が昨年と比較して83件減少しています。

2. 過去3年間の美作市消防本部管内種別別119番通報着信件数

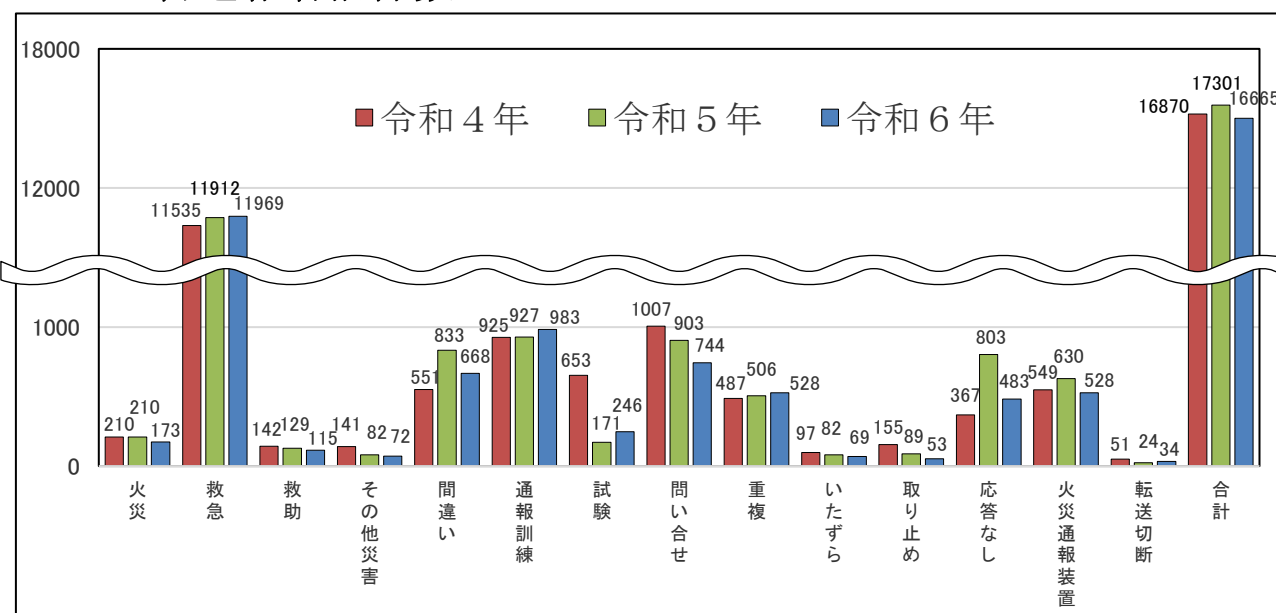


過去3年間の美作市消防本部の種別別119番通報着信件数をみると、「救急」が他の種別に比べて多くなっています。

昨年と比較すると「火災」は7件減少、「救助」は5件増加、「その他の災害」は4件増加しています。「救急」の着信件数は近年、コロナウイルス感染症の影響で増加傾向にありましたが、2類感染症から5類感染症へ引き下げられた影響で減少傾向にあると考えられます。

令和4年から新たに「火災通報装置」の種別が入ったことにより、火災通報装置から着信した誤報や重複等は火災通報装置として処理しているため、関係種別で若干の増減があります。

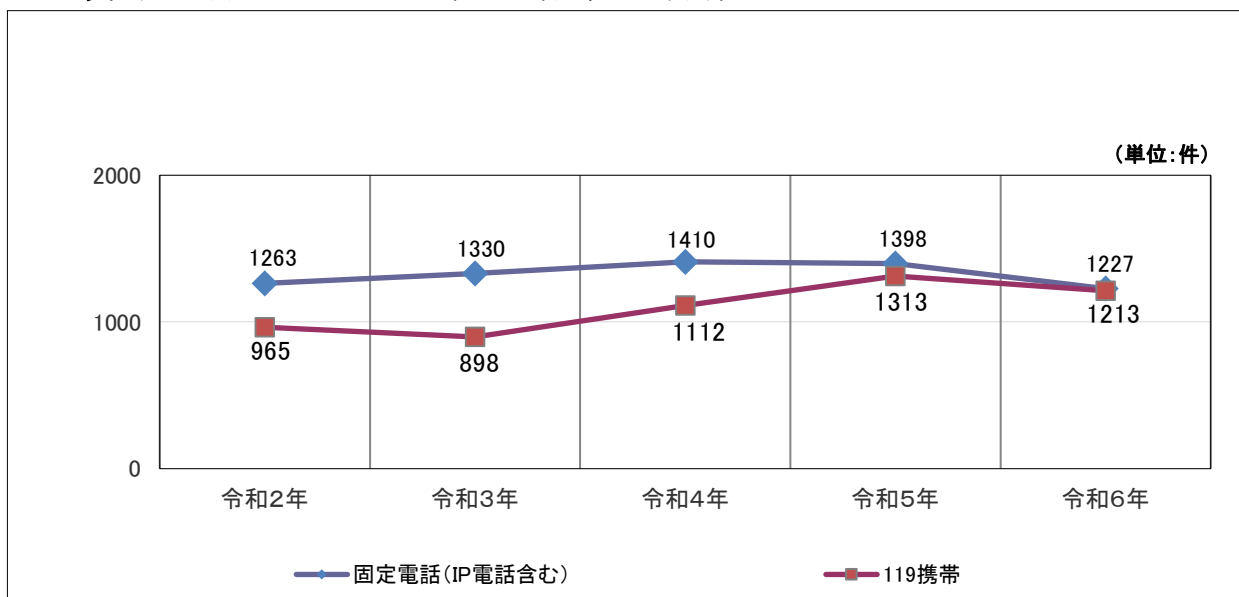
3. 過去3年間の美作地区消防指令センター管内種別別119番通報着信件数



過去3年間の美作地区消防指令センター管内の種別別119番通報着信件数をみると、「救急」が他の種別に比べて多くなっています。

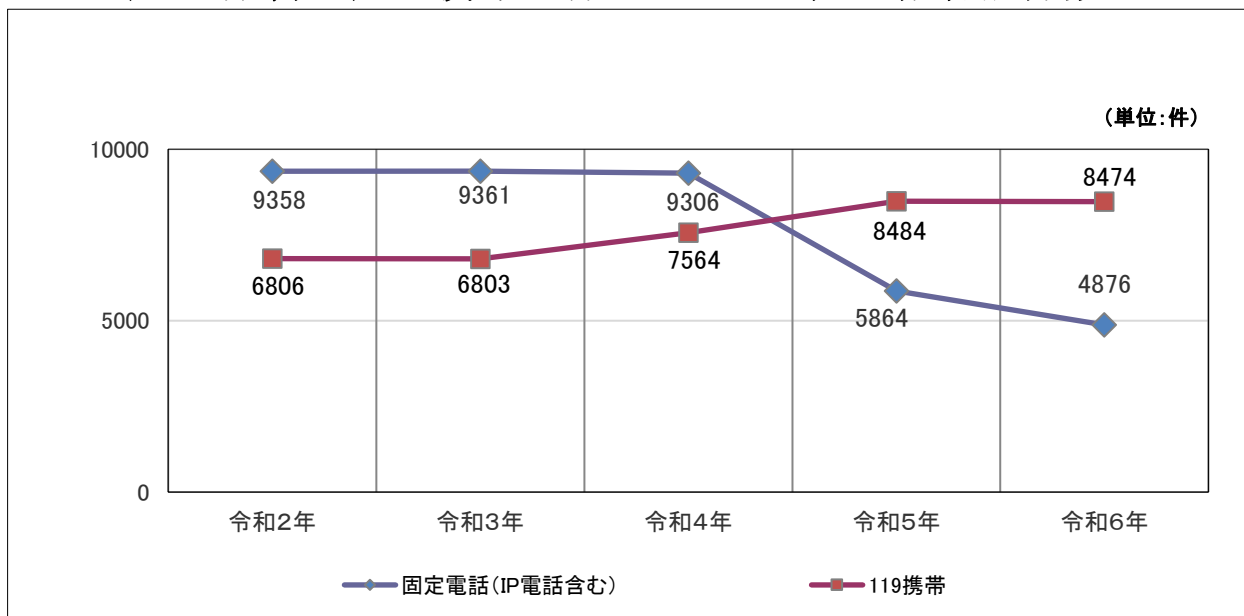
「救急」の着信件数について、美作地区消防指令センター管内で見れば、令和6年は令和5年と比べて57件増加、前項のとおり美作市消防本部管内では109件減少しています。

4. 過去5年間の美作市消防本部管内固定電話（IP電話含む）と携帯電話からの119番通報着信件数



美作市消防本部管内の固定電話と携帯電話からの着信件数を比較してみると、令和6年に限り固定電話、携帯電話共に使用比率はほぼ同じとなっています。固定電話は登録情報などから場所の特定は容易になりますが、発生場所から離れていると聴取内容の聞き取りに時間を要してしまうこともあります。また交通事故、山岳救助などの通報時にはスマートフォンによるLive119通報システムの活用を積極的に促していますが、電波状況により使用状況が左右されています。

5. 過去5年間の美作地区消防指令センター管内固定電話（IP電話含む）と携帯電話からの119番通報着信件数



美作地区消防指令センター管内の固定電話と携帯電話からの着信件数を比較してみると、令和4年からの固定電話の着信件数は減少傾向にあります。令和2年から令和4年までは横這いでしたが、令和5年からは約1,000件下がっています。

一方、携帯電話からの着信は、令和4年からは増加しています。

またスマートフォンからの通報は、Live119通報システムに繋ぐことが可能となり大きな事故や山岳救助などで応急処置などに活用したり、心肺蘇生が必要な通報現場では胸骨圧迫の画像を共有することも可能となりました。